倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事

図面番号	図名	図面番号	図名	図面番号	図名
A-01	建築工事仕様書（１）	A-13	南口　既存２階平面詳細図	S-06	南口　既存中間階鉄骨梁伏図･部材ﾘｽﾄ
A-02	建築工事仕様書（２）	A-14	南口　改修後１階平面詳細図	S-07	南口　既存鉄骨軸組図
A-03	建築工事仕様書（３）	A-15	南口　改修後２階平面詳細図	S-08	南口　改修後雨水防護壁鉄骨伏図（１）・（２）
A-04	建築工事仕様書（４）	A-16	改修後断面詳細図（１）	S-09	南口　改修後雨水防護壁鉄骨伏図（３）・部材リスト
A-05	付近見取図　全体配置図	A-17	改修後断面詳細図（２）	S-10	南口　改修後雨水防護壁鉄骨軸組図
A-06	全体１階平面図・工事概要	A-18	南口　庇ｼｪﾙﾀｰ詳細図	S-11	南口　改修後中間階躯体伏図・断面図・基礎詳細図
A-07	南口　１階平面図・求積図			S-12	南口　庇ｼｪﾙﾀｰ部基礎伏図・基礎詳細図
A-08	既存全体立面図	S-01	構造特記仕様書		
A-09	改修後全体立面図	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）		
A-10	既存全体断面図	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）		
A-11	既存全体１階天井伏図	S-04	鉄骨工作標準図（１）		
A-12	既存１階平面詳細図	S-05	鉄骨工作標準図（２）		

(有)MIEUX設計工房

建　築　工　事　仕　様　書

Ⅰ．　工　事　概　要

1．工 事 場 所　　倉吉市上井

2．地 域 地 区　　都市計画地域（ ⊙ 内 ・ 外 ）

　　用途地域等　（ 商業地域　　）

3．敷 地 面 積　　㎡

4．建 物 概 要

番号	名　称	工事種別	構　造	階数	建築面積(㎡)	屋根面積(水平㎡)
①	南口雨水防護壁	新築	鉄骨造	1	――	――

Ⅱ．　建 築 工 事 仕 様

1．一 般 事 項

（1）質問回答書、現場説明書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成２２年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成２２年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）による。

（2）電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2．特 記 仕 様

（1）章及び項目は番号に○印のついたものを適用する

（2）特記事項は○印のついたものを適用する

　　○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する

　　○と⊙のついた場合は共に適用する

（3）項目に記載の（　　）内表示番号等は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す

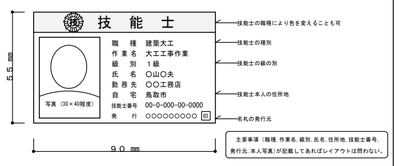
（4）材料及び製造所等の記載は順不同である

章		項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	①	適用基準等	※ 建築工事標準図　　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成１７年版） （以下「標準詳細図」という） ※ 建築工事監理指針（上巻・下巻）　　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成２２年版） ※ 工事写真の撮り方（改定第二版）建築編　　建設大臣官房官庁営繕部監修 ⊙ 鉄筋コンクリート構造配筋要領　　建設大臣官房官庁営繕部監修（平成１１年版） ⊙ 鉄骨設計標準図　　建設大臣官房官庁営繕部監修（平成９年版） ・ 木造建築工事標準仕様書　　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成１６年版） ・ 建築物解体工事共通仕様書・同解説　　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成１８年版） ・
	②	官公庁への他への手続 (1.1.3)	工事の施工に伴い必要な官公署、その他への手続き、検査並びにその費用は、本工事請負者の負担とする。
	3	電気保安技術者 (1.3.3)	工事現場におく電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規定第５条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。
	④	工事安全計画書 (1.3.7)	建設工事安全施工技術指針及び建築公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。
	⑤	発生材の処理等 (1.3.8)	・ 引き渡しを要するもの（　　） ・ 現場において再利用を図るもの（　　） ・ 特別管理産業廃棄物（　　） ⊙ 再資源化を図るもの （・ コンクリート塊　・ アスファルトコンクリート塊　・ 建設発生木材） ⊙ 上記以外の発生材　１．３．８（ｂ）（３）による。
	⑥	環境への配慮 (1.4.1)	化学物質を放散させる建築材料等 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の１）から５）を満たすものとする。 １）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ２）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ３）接着剤はフタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ４）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 ５）１）、３）及び４）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、そのたの什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外 ア．ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品 イ．建築基準法施行令第２０条の７　第４項による国土交通大臣認定品 ウ．下記表示のあるＪＡＳ規格品 ア）．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 イ）．接着剤等不使用 ウ）．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 エ）．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 オ）．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 カ）．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 ホルムアルデヒド放散量　第三種 ア．ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品 イ．建築基準法施行令第２０条の７　第３項による国土交通大臣認定品 ウ．旧ＪＩＳのＥ$_0$規格品 エ．旧ＪＡＳのＦｃｏ規格品
	⑦	材料の品質等 (1.4.2)	本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ及びＪＡＳマーク表示のない材料及びその製造業者等は、次の１）～６）の事項を満たすものとする。 １）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ３）安定的な供給可能であること。 ４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ６）販売、保守等の営業体制が整えられていること。 なお、商品名が記載された材料については、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。 また、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。
	⑧	特別な材料の工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法による。

章		項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	⑨	技能士 (1.5.2)	下表により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。 （技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有する者） また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札（下図参考）を常時着用すること。

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	・ とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	・ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	・ 型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	・ コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄骨	⊙ 構造物鉄鋼作業
	とび	・ とび作業
コンクリートブロック ALCパネル 押出成形セメント板 工事	ブロック建築	・ コンクリートブロック工事作業
		・ ＡＬＣパネル工事作業
防水工事	防水施工	・ アスファルト防水工事作業
		・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
		・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業
		・ 合成ゴム系シート防水工事作業
		・ 塩化ビニル系シート防水工事作業
		・ セメント系防水工事作業
		・ シーリング防水工事作業
		・ 改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業
		・ ＦＲＰ防水工事作業
石工事	石材施工	・ 石張り作業
タイル工事	タイル張り	・ タイル張り作業
木工事	建築大工	・ 大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	・ 内外装板金作業
	スレート施工	・ スレート工事作業
金属工事	内装仕上施工	・ 鋼製下地工事作業
	建築板金	・ 内外装板金作業
左官工事	左官	・ 左官作業
建具工事	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ ガラス工事作業
	自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・ 金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ ガラス工事作業
塗装工事	塗装	⊙ 建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	・ プラスチック系床仕上工事作業
		・ カーペット系床仕上作業
		・ ボード仕上工事作業
	表装	・ 壁装作業
排水工事	配管	・ 建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	・ 溶融ペイントハンドマーカー工事作業
		・ 加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	造園	・ 造園工事作業
畳工事	畳	・ 畳製作作業
		・
		・
		・
		・

《技能士名札参考図》



章		項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	10	設備工事との取り合い	

設備工事との取り合い		建築	電気	機械
・ コンクリート壁、床、梁貫通部	補強	※	・	・
	スリーブ・箱入れ	・	※	※
・ 鉄骨梁の開口及び補強		※	・	・
・ 照明器具・鉄線等の吊りボルト用インサート		・	※	・
・ 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		・	※	・
・ 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの	仮枠	・	※	・
仮枠及び埋込部分の補強	補強	※	・	・
・ ＯＡフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※	・	・
・ 埋込型機器取付用の天井	切込	・	※	※
壁の切込加工、下地の補強	補強	※	・	・
・ 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及び				
ドアクローザ、フロアヒンジ		※	・	・
・ 電気室、自家発電室などの基礎及びピット	蓋を含む）	※	・	・
・ テレビアンテナ	基礎	※	・	・
	アンカーボルト	・	※	・
・ 天井点検口		※	・	・
・ 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置	・	※	※
	屋上設備	※	・	・

章		項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	11	化学物質の濃度測定 (1.5.9)	図示した室のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する。 パッシブ型採取機器を用いて、次の要領で測定及び分析を行う。 ○３０分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む。）を開放し、３０分間換気する。 ○５時間閉鎖 ○の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する。 ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。 ○測定 イ　○の状態のままで測定する。 ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する。 ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする。 ○分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。 ○その他 監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること。
	⑫	完成写真	下記のものを監督職員に提出する。

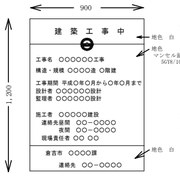
区　分	分類・規格	撮影箇所	部数	原版の大きさ(㎜)
※ 工事記録写真	カラーサービス判	各工種の工程毎	２部	・ 24× 36以上
※ 完成写真	カラーサービス判	・ 内部　箇所	２部	・ 24× 36以上
		⊙ 外部 必要箇所	２部	・ 24× 36以上
・	カラーキャビネ判	・ 内部　箇所	部	・ 24× 36以上
		・ 外部　箇所	部	・ 24× 36以上
		・ 四ツ切　箇所	２部	・ 100×125以上
・ パネル	カラー	・ 半切　箇所		・ 24× 36以上
		・ 全紙　箇所		
・				

⊙ 電子データ及びネガの提出[工事記録写真]　（ ・ 要 ⊙ 不要）

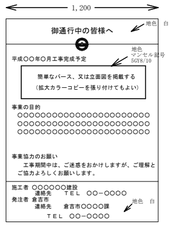
⊙ 電子データ及びネガの提出[完成写真]　（ ⊙ 要 ・ 不要）

章		項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	⑬	完成図 (1.7.2)	下記のものを監督職員に提出する。 ⊙ 原図Ａ１版又はＡ２版（設計図の第２原図訂正不可）　１部 ⊙ ＣＡＤデータ　１部 ⊙ 原図の陽画複写紙の２つ折製本　２部 ⊙ 原図の縮小版の陽画複写紙の２つ折製本（Ａ４版）　２部 ・ 複写　縮小版Ａ３パラ焼　　部 完成図の種類及び内容 ⊙ 案内図・配置図・面積表 ： 配置図には外構整備、屋外給排水系統図含む。（ＢＭの表示） ⊙ 平面図 ： 室名、耐震壁（防火壁）、避難施設等を表示する。 ⊙ 立面図 ： 外壁仕上等を表示する。 ⊙ 断面図 ： 階高、天井高等を表示する。 ⊙ 仕上表 ： 屋外、屋内（各階）の仕上表を表示する。 ・
	⑭	施工図及び施工計画書 (1.7.2)	提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	⑮	保全に関する資料 (1.7.3)	下記のものをＪＩＳ Ａ４版ファイルに製本して監督職員に提出する。 ⊙ 主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表 ⊙ 機器性能試験成績書及び取扱説明書 ⊙ 保証書 ⊙ 官公署届出書類（保守に必要とするもの） ⊙ 建築物の保守に関する説明書、指導案内書 ・ ・ ・
	⑯	設計ＧＬ	※ 図示　・（　　）
	17	耐荷重及び耐外力	建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速等　Ｖo＝　m/s 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ 積雪区分　（　m）
	⑱	火災保険等	工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするための火災保険等に加入する。 （保険の加入期間は、工事完成引き渡しまでとする。）
	19	グリーン購入	グリーン購入は次のものとする。 ・ タイル　・ 再生木質ボード　・ 断熱材　・　・
	20	環境配慮	鳥取県公共工事環境配慮指針　※ 対象工事　・ 非対象工事
	21	建設リサイクル法	※ 対象工事　・ 非対象工事
	22	鳥取県福祉の まちづくり条例	※ 対象工事　・ 非対象工事
	23	鳥取県景観形成条例	※ 対象工事　・ 非対象工事
	24	バリアフリー法	※ 対象工事　・ 非対象工事
	25	省エネ法	※ 対象工事　・ 非対象工事
② 仮設工事	①	足場その他 (2.2.4)	枠組み足場の場合 「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省　平成１５年４月）」により、設置については同ガイドラインに基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材が備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり専用足場型と同等の機能を確保するものとする。
	②	監督員事務所 (2.3.1)	※ 設ける（　　㎡）　⊙ 設けない 備品等は監督職員の指示による。
	③	表示板	設ける。（寸法等は下図による。建築工事、機械設備工事等と一括して表示する）

※ 工事表示板



※ お願い表示板



記入要領

1．書体は角ゴシックとする。

2．お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督職員が指示するものとする。

章		項　目	特　記　事　項
② 仮設工事	④	工事用水	構内既存の施設　・ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償 ）　⊙ 利用できない
	⑤	工事用電力	構内既存の施設　・ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償 ）　⊙ 利用できない
	⑥	工事用仮設物	構内への設置　⊙ できる　・ できない
	7	工事現場のイメージアップ	
3 土工事	1	埋戻し及び盛土 (1.2.3)	埋戻し土　種別　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種　表 3.2.1 ・ 建設汚泥から発生した処理土 盛土　種別　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種 ・ 建設汚泥から発生した処理土
	2	建設発生土の処理 (3.2.5)	※ 構外指示の場所に処分 ・ 構内指示の場所に敷き均し ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外搬出適切処理

章		項　目	特　記　事　項
4 地業工事	1	試験杭 (4.2.2)	杭の本数　※ 最初の１本　・ 図示による 杭の種類、寸法　※ 本杭と同じ　・ 図示による 杭の長さ　※ 本杭より１m長くする　・ 図示による プレボーリング　※ 行う（　m）　・ 行わない 設計支持力（長期）　［　　KN/本 ］
	2	既製コンクリート杭地業 (4.3.2~7)	工法　※ 特定埋込杭工法 ・ ・ 杭の種類　表 4.3.1 種類の記号　※ ＰＨＣ杭　・ 品 質　※ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種　・ 寸 法　※ 図示による 継手の箇所数　※ 図示による 先端部の形状　※ 開放形　・ 継手の工法　※ 溶接継手（アーク溶接）　・ 無溶接継ぎ手 杭頭の処理　※ 切断しない　・ 図示による
	3	鋼杭地業 (4.4.2~5)	工法　※特定埋込工法 ・ ・ 杭の種類　表 4.4.1 規格名称　※ 鋼管杭　・ 種類の記号　・ SKK400　・ SKK490　・　・ 寸 法　※ 図示による 継手の箇所数　※ 図示による 先端部の形状　※ 開放形　・ 継手の工法　※ 溶接継手（アーク溶接）　・ 無溶接継手 溶接部の確認　※ 行う　・ 行わない 杭頭の処理　※ 切断しない　・ 図示による
	4	場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1~5)	工法　・ アースドリル工法　・ リバース工法　・ オールケーシング工法 掘削深さ　※ 図示による 断面寸法 コンクリートの設計基準強度　※ ２１ N/mm²　・　N/mm² コンクリートの種別　・ Ａ種　※ Ｂ種　表 4.5.1 孔壁測定　・ 行う 測定方法　※ 超音波測定　・ 測定箇所　※ 試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所 ・ 行わない
	5	砂利及び砂地業 (4.6.3)	厚さ　⊙ 図示による　・ ６０　・ １００ 砂利の種類　※ 再生クラッシャラン　・ 切込砂利　・ 切込採石 粒度　※ ４０㎜　・ 図示による
	6	捨コンクリート地業 (4.6.4)	厚さ　※ ５０㎜　・ 図示による
	7	床下防湿層 (4.6.5)	施工箇所　※ 建物内土間スラブ（土間コンクリートを含む）直下（ピット下を除く） ・ ・
⑤ 鉄筋工事	①	鉄筋 (5.2.1)	表 5.2.1 種類の記号　径 ※ ＳＤ２９５Ａ　Ｄ１０ ， Ｄ１３ ， Ｄ１６ ※ ＳＤ３４５　Ｄ１９ 以上 ・
	2	溶接金網 (5.2.2)	寸法　※ 6.0φ×100×100　・ 施工箇所　（　　）
	③	継手 (5.3.4)(5.4.9)(5.5.2)	柱・梁の主筋の継手　※ ガス圧接継手　⊙ 重ね継手 圧接完了後の抜取試験　※ 超音波探傷試験　・ 引っ張り 先組工法の適用（全数）　・ 図示による
	4	鉄筋のかぶり厚さ (5.3.5)	塩害対策により鉄筋の最小かぶり厚さに加える厚さ　表 5.3.8 ・ ２０　・ ３０　・ 図示による
	5	圧接完了後の試験 (5.4.9)	試験方法及び判定基準 ※ JIS Z 3062 による 試験従事者 ※ 第三者機関
⑥ コンクリート工事	①	コンクリートの種類と強度 (6.1.4)(6.2.3)	※ 普通コンクリート 設計基準強度（Fc）(N/mm²)　ΔF (N/mm²)　適用箇所 ※ ２１　＋３　基礎 ・ ・
	②	レディミクストコンクリートの種別 (6.1.5)	※ Ⅰ種　・ Ⅱ種　表 6.1.1
	③	ワーカビリティ及び スランプ (6.2.3)	表 6.2.1 所要スランプ（cm）　打込み箇所 ⊙ １５　基礎 ・ １８ ・
	④	単位水量の測定	単位水量の上限値は、１８５Kg/m³とする。
	⑤	コンクリートの仕上り (6.2.5)	合板せき板を使用する場合　表 6.2.3 種別　適用箇所 ・ Ａ種　※ 図示による　・ ※ Ｂ種　※ 図示による　・ ・ Ｃ種　※ 図示による　・
	⑥	セメント (6.3.2)	セメントの種類　※ 普通ポルトランドセメント　・ 混合セメントのＡ種 ・ アルカリシリカ反応性による区分　※ Ａ　・
	⑦	混和材料 (6.3.5)	混和材の種類　※ 混和剤（ＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤） ・ 混和剤（ ・ フライアッシュ　・ 高炉スラグ　・ 膨張剤 ）
	⑧	コンクリートの製造工場の認定 (6.4.1~2)	生コンクリート工場を選定する際には、JISマーク表示認定工場で、かつ、コンクリート主任技師等の常駐と全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等から選定すること。

(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
譲　岐　英　夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
譲　岐　英　夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
	111200	小椋 ・	・	譲岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
DR.NAME	建築工事仕様書（１）	A-01

⑥ コンクリート工事

⑨ 型枠のせき板 (6.9.3)
- ※ 合板（厚さ12mm）　・ 合板（厚さ15mm）
- ・ 床型枠用鋼製デッキプレート（平成２年建設省告示第１３６８号による建設技術評価「鉄筋コンクリート建築物等における床型枠用鋼製デッキプレートの開発」において評価を取得したもの又は同等品とする。）
- ・ メッシュ型枠（構造関係共通事項による）
- ・ 断熱材兼用型枠　25mm以下かつ熱抵抗値 1mh℃/KCal 以上
- ・ ＭＣＲ工法用シート（気泡発泡ポリエチレンシート）

⑩ アルカリ総量 (6.5.4)
総量　３ Kg/m³以下

１１ マスコンクリート (6.13.2～3)
セメントの種類　※ 高炉セメントＢ種　・
スランプ　※ １５ｃｍ　・

⑫ 無筋コンクリート (6.14.1)(6.14.3)

種　類	設計基準強度（Ｆc）（Ｎ/mm³）	施　工　箇　所
普通コンクリート	※ １８	捨
	・	

１３ 強度の高いコンクリート (6.15.1)
設計基準強度（Ｆc）　・ ２７ N/mm²　・ ３０ N/mm²
　・ ３３ N/mm²　・ ３６ N/mm²　・ N/mm²
スランプ　・ １８ cm　・ ２１ cm　・ cm

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場 (7.1.3)
- ・ 監督職員の承諾する工場
- ※ 建築基準第７７条の４５第１項に基づく国土交通大臣から性能表か機関として認定を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鐵鋼工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Ｊ，Ⓡ Ｍ，Ｈ，Ｓグレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

施工管理技術者　※ 適用する　・ 適用しない

② 鋼　材 (7.2.1)(7.2.4)
※ ＪＩＳ規格品

表 7.2.1

規格番号	規格名称等	施工箇所
⊙ JIS G 3101	一般構造用圧延鋼材　SS400	鋼板･形鋼･平鋼
・ JIS G 3350	一般構造用軽量形鋼　SSC400	
⊙ JIS G 3466	一般構造用鋼管　STK400	柱･梁
・ JIS G 3136	一般構造用圧延鋼材　SN400A	

⊙ 建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鋳鋼

③ 高力ボルト (7.2.2)(7.3.2)(7.4.1～9)
- ⊗ トルシア形高力ボルト　（セットの種類　※ ２種(S10T)　・　）
- ・ ＪＩＳ形高力ボルト　（セットの種類　※ ２種(F10T)　・　）
- ・ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト（セットの種類　※ １種(F8T相当)　・　）

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※ 図示　・
すべり計数値試験　※ 行わない　・ 行う［ 試験方法（　）］

④ アンカーボルトの材質及び設置 (7.2.4)(7.10.3)
材質　構造用アンカーボルト ⊗ ＳＮＲ４００　⊙ あと施工アンカー(樹脂系)　表 7.10.1
　建方用アンカーボルト ※ ＳＳ４００　・

構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状、寸法　※ 図示　・Ｂ種

建方用保持及び埋込み方法　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種

⑤ 柱底均しモルタルの材料及び工法 (7.2.9)(7.10.3)
材料　※ 無収縮モルタル　表 7.2.6
　・ モルタル
工法　※ Ａ種　・ Ｂ種　・ 図示　表 7.10.2

6 入熱、パス間温度の溶接条件
鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件　※ 図示
適用箇所　・ 図示
　・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接

⑦ 溶接部の試験 (7.6.11)
完全溶け込み部の超音波探傷試験　⊙ 行う　・ 行わない　表 7.6.2～4

8 錆止め塗料 (7.8.1～4)
鉄面　表 18.3.1 の　・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種
亜鉛メッキ面　表 18.3.2 の　※ Ａ種　・ Ｂ種　・ Ｃ種

9 耐火被覆材の種別、性能 (7.9.2～7)
種別　・ ラス張りモルタル塗り　・ 耐火材吹付　・ 耐火板張り　・ 耐火材巻付け
性能

⑩ 建方精度 (7.10.2)
※ ＪＡＳＳ６ 付則６「鉄骨精度検査基準」付表５「工事現場」による
・

１１ 溶融亜鉛メッキ (7.12.3)
種別　表 14.2.2 のＡ種（計量形鋼は、板厚によりＢ種、Ｃ種とする）

１２ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト接合 (7.2.2)(7.3.2)(7.12.4)
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※ 図示
摩擦面の処理　※ ブラスト処理（表面粗度 50 μmRz 以上）　⊙ リン酸塩処理
すべり耐力等の確認方法　※ 図示　・ すべり試験

8 コンクリートブロック・押出成形セメント板・ＡＬＣパネル

1 コンクリートブロック (8.2.2)(8.2.5)(8.3.2)

表 8.3.1

適用箇所	断面形状及び圧縮強さによる区分
間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀	※ 空洞ブロック16　・ 空洞ブロックW-16
衛生配管用裏積みブロック	※ 空洞ブロック08　・ 空洞ブロック16

厚さ：図示による

2 ＡＬＣパネル (8.4.2～6)

表 8.4.2～4

種類	厚さ（mm）	単位荷重（N/㎡）	耐火性能	工法種別
・ 外壁用	・100　・		・	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
・ 間仕切用	・100		・	・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種
・ 屋根用	・100		・ 30分	・Ｆ種
・ 床用	・100 ・150		・ 60分 ・ 120分	・Ｆ種

(8.4.3)
外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画として提出する。
外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅
※ ２０mm　・ mm　・ mm
伸縮目地への耐火目地材の充填　・ 適用する　・ 適用しない

3 押出成形セメント板(ECP) (8.5.2～3)

表 8.5.1～2

	表面形状	厚さ（mm）	耐火性能	取付工法の種別
・外壁	※ フラットパネル	・50　・60		・ Ａ種　・ Ｂ種
	・デザインパネル(図示)	・50　・60		
・間仕切壁	※ フラットパネル	・50　・60		・ Ｂ種　・ Ｃ種
	・デザインパネル(図示)	・50　・60		

(8.5.3)
外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画として提出する。

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水 (9.2.2～5)

表 9.2.1～8

種別	施工箇所	種別	施工箇所
ＡＩ－２			
ＢＩ－２			

屋根保護防水断熱工法の断熱材（オゾン層破壊物質を含まないもの。また、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること。）

材質　※ 押出法ポリスチレンフォーム３種ｂスキン層付（JIS A9511）
厚さ　※ 25mm

防水立上がり部の保護
- ・ コンクリート押え
- ・ モルタル押え［ 適用箇所：　］
- ・ れんが［・ ＪＩＳ Ｒ １２５０（普通れんが）　・　］
- ・ 乾式保護材
　無石綿の繊維質原料等を主原料として板状に押出成形し、オートクレーブ養生したもの（窯業系パネルⅡ類）とし寸法等は図示による。

品質性能等
　寸法の許容差　厚さ：－５～＋１０%、幅：±１%
　曲げ強さ、曲げモーメント(N・cm)(スパン５０cmにおける単位幅１cmあたりの曲げモーメント)
　標準時４５０以上凍結融解完了時(試験サイクル数) ３２０以上(２００)
　凍結融解性能(試験サイクル数：上記)試験後、著しい割れや剥離がなく外観上異常がないこと
　吸水率：（２０%以下）　吸水による長さ変化率：（０.０７%以下）
　耐火性能：不燃
　耐衝撃性：高さ１.０mから試験体の弱点部に 500g のおもりを落としたときに、裏面に達する穴がないこと。
　出荷時の含水率：１０%以下

屋根露出防水絶縁工法の脱気装置
※ 設ける
　種類　・ 平場部脱気型　・立上り部脱気型
　設置数量　箇所
・ 設けない

② 改質アスファルトシート防水 (9.3.2～3)

表 9.3.1

種別	施工箇所	種別	施工箇所
ＡＳＩ－２	既存ﾄｲﾚ屋上基礎		

3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2～3)

表 9.4.1

種別	施工箇所	種別	施工箇所

Ｓ－Ｆ１，Ｓ－Ｍ１ の仕上げ塗料　・ カラー　・ シルバー

機械固定方法の場合の一般部ルーフィングの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画として提出する。

④ 塗膜防水 (9.5.3)

表 9.5.2

種別	施工箇所	種別	施工箇所
Ｘ－２	既存ﾄｲﾚ屋上基礎天端		

脱気装置（種別Ｘ－１）　・ 設けない　・ 設ける

⑤ シーリング用材料 (9.6.2)
種類及び施工箇所［図示以外は（ 表 9.6.1 ）による］　⊙ 図示による。
シーリング面への仕上塗材仕上げ等　※ 行わない　・ 行う

⑥ シーリングの試験 (9.6.5)
接着性試験
・ 行う（ ※ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験 ）
⊙ 行わない

10 石工事

1 石　材 (10.2.1)
種類　・ 天然石　・ 人工石　・ テラゾブロック及びテラゾタイル
品質　・ １等品（床以外）　・ ２等品（床）　・
形状、寸法及び厚さ　※ 図示

石材の種類及び表面仕上げ　表 10.2.1～2

施工箇所	種類（産地、名称）	仕上げの種類	表面処理・裏打ち材の有無

2 取付け金物 (10.2.2)
乾式工法用金物式　・ スライド方式　・ ロッキング方式　表 10.2.4

3 その他の材料 (10.2.3)
- ・ 石裏面処理材（　）
- ・ 裏打ち処理材（　）
- ・ ドレンパイプの材質（　）
- ・ 金物固定充填材料（　）

⑪ タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)
外壁　※ 図示による　・ 表 11.1.1 による　・ 耐震スリット部

② 材　料 (11.2.2)
タイルの種類　※ 標準色　・ 特注色

施工箇所	形状（mm）	きじ	うわぐすり	その他
南口庇ｼｪﾙﾀｰ基礎部床	300*300			既存ﾀｲﾙ：ＩＮＡＸ陶墨染No1

再生材利用タイルの原材料
陶磁器質タイルで原料に再生材料（下表左欄に記載したものを原料として、同表右欄に記載した前処理方法に従って処理されたもの等）を用いられているものであること。
再生材料が原料の重量比で２０%以上（複数の材料を使用している場合はそれらの材料の合計）使用されていること。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除くものとする。

再生材料の原料になるもの	前処理方法
採石及び窯業廃土、無機珪砂（キラ）、鉄鋼スラグ、非鉄スラグ 鋳物砂、陶磁器屑、石灰灰、廃ゴム、廃プラスチック 建設廃材（汚泥を除く）、磨砂汚泥、製紙スラッジ アルミスラッジ、石材屑、湖沼等の汚泥、廃ガラス、上水道汚泥	前処理方法によらず対象
都市ゴミ焼却灰	溶融スラグ化
下水道汚泥	焼却灰化又は溶融スラグ化
上水道汚泥、湖沼等の汚泥	前処理によらず対象

役物使用箇所　※各部の形状は図示による

内　装	・ 出隅　・ 天端　（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
外　装	・ 出隅　・ 窓台　・ まぐさ　・

タイルの試験張り　※ 行わない　・ 行う（　）
タイルの見本焼き　※ 行わない　・ 行う（　）

有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

3 外部陶磁器質タイル後張り (11.3.3)
施工箇所　※ 外壁（ホール含）　・ 図示　・
適用タイル　・ 小口タイル　・ 二丁掛タイル　・ ５０角モザイクタイル

躯体表面処理　※ ２階以上を行う　・ 行わない
　躯体表面処理工法の種類
　※ 目荒らし工法
　　高圧水洗による目荒しは、５０Mpa以上の水圧で 2.5分/㎡ 程度とし、
　　仕上り面の程度は監督職員の承諾を受ける。
　　施工箇所の躯体の増打ちは、図示による。
　・ ＭＣＲ工法
　　ＭＣＲ工法の仕様はシート製造所若しくは販売店の仕様による。
　　施工箇所の躯体の増打ちは、図示による。

下地モルタル塗り　※ モルタル　・ ポリマーセメントモルタル　・ 行わない
　ポリマーセメントモルタルの調合は、15.2.3(b)による。

工法　※ 密着張り　・ 改良圧着張り　・ 改良積上張り　表 11.3.2
　・ マスク張り　・ モザイクタイル張り　・

4 内部陶磁器質タイル後張り (11.3.3)
施工箇所　※ 便所等　・ 図示　・
適用タイル　・ 内装陶器質タイル　・ ５０角モザイクタイル　・

下地モルタル塗り　※ モルタル　・ ポリマーセメントモルタル　・ 行わない
　ポリマーセメントモルタルの調合は、15.2.3(b)による。

工法　※ 壁タイル接着剤張り　・ 改良積上張り　・　表 11.3.2

⑫ 木工事

① 表面仕上げ (12.1.4)
表面仕上げの程度　表 12.1.1
・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種

② 木材 (12.2.1)
木材の含水率　表 12.2.1
※ Ａ種　・ Ｂ種

造作材の材面の品質
※ Ａ種　・ Ｂ種

樹種
※ 図示による［ 代用樹種の使用：※ 認めない　・ 認める(監督職員と協議要) ］
※ 木材のうち、杉、桧及び松は、「鳥取県産材産地証明制度」の認証を受けたものを使用する。

③ 集成材等 (12.2.2)
ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　⊙ 第三種

集成材、合板、単板積層材の原材料
~~間伐材、合板、製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が１０%以上であること。~~

・ 造作用集成材　材の樹種及び見付け材面の品質

施工箇所	樹種	見付け材面の品質/等級	施工箇所	樹種	見付け材面の品質

・ 化粧梁造作用集成材

施工箇所		見付け面材の品質/等級	心材の樹種	化粧薄板の樹種	化粧薄板の厚さ(mm)

・ 単板積層材

施工箇所	表面の品質	防虫処理

4 床張り用合板 (12.2.3)
ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・ 第三種
材料　厚さ：［　mm］　樹種：［　］　等級：［　］
　接着の程度：［　］　板面の品質：［　］

⑤ 接着剤 (12.2.6)
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　⊙ 第三種

6 防腐・防蟻処理 (12.2.8～9)
表面処理用木材保存（防腐・防蟻処理）剤は、監督職員の承諾するものとする。
適用箇所　・ 図示による　・ GL+(　)の範囲
性能等　ＪＡＳによる性能区分　※ Ｋ３　・

⑬ 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺 (13.2.2～3)
長尺金属板の種類　表 13.2.1
- ※ 塗装溶融亜鉛５５%アルミニウム―亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＧＬＣＣＲ－２０－ＡＺ１５０）
- ・ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯（ＣＧＣＣＲ２０－Ｚ２５）
- ・ ポリ塩化ビニル被覆金属板（Ａ種、ＳＧ）
- ・ 塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＺＡＣＣＲ－２０）
- ・
- ・

長尺金属板の厚さ（mm）
　一般部　・ 0.3　・ 0.35　※ 0.4
　谷部　・ 0.3　※ 0.4

下葺材料
※ アスファルトルーフィング９４０　（ JIS A 6005 ）
・

屋根葺き形式　・ 横葺　・ 芯木なし瓦棒葺　・ 立平葺　・ あり掛葺
屋根葺き工法を定める専門工事業者　※ 監督職員の承諾する業者
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する。

2 折板葺 (13.3.2)
形式　⊙ 重ね形　・ ハゼ締め形　・ かん合形　表 13.2.1
　山高 88 mm　山ピッチ 200 mm

材料
- ※ 塗装溶融亜鉛５５%アルミニウム―亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＧＬＣＣＲ－２０－ＡＺ１５０）
- ・ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯（ＣＧＣＣＲ２０－Ｚ２５）
- ・ ポリ塩化ビニル被覆金属板（Ａ種、ＳＧ）
- ・ 塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）（ＣＺＡＣＣＲ－２０）
- ⊙ 溶融亜鉛５５%アルミニウム―亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（屋根用）
- ・

軒先面戸板　⊙ 適用する　・ 適用しない
ペフ張り　⊙ 適用する（t= ４ mm）［ ・不燃材　・30分耐火 ］
　・ 適用しない
変形防止材　⊙ 鉄鋼製　・ ステンレス製
　鉄鋼製の表面処理の上塗り　・ 行う（　）　⊙ 行わない
表面処理の上塗り　・ 行う　⊙ 行わない
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する。

3 粘土瓦葺 (13.4.2～3)
材料：※ JIS A 5208 及び図示による　産地［　］産
下葺材料
　※ アスファルトルーフィング９４０　（ JIS A 6005 ）
　・
桟木　樹種：※ 杉　※ 桧　・
　寸法：※ 21(w)×15(h)以上　・
補強用芯材　樹種：※ 杉　※ 桧　・
　寸法：※ 40(w)×30(h)以上　・
棟の工法　※ 図示による
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する。

④ と　い (13.5.2)
材種　・ 配管用鋼管　・ 硬質塩化ビニル管（VP）　表 13.5.1
　⊙ ステンレス管　⊙ アルミ
　・ 建築排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管（RF-VP）　色：（　）
　　建物内外での硬質塩化ビニル管であって使用済み塩化ビニル管を原料とする
　　塩化ビニルが製品全体重量比で３０%以上使用されていること。

鋼管製といの防露　※ 行う（ 表 13.5.5 ）　⊙ 行わない
　ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
　※ 既製対象外　・ 第三種

とい受け金物　・ 市販品　・ 表 13.5.3
ルーフドレイン　・ 市販品　・ 設けない

5 鋼管製といの防露巻工法部等の処理 (13.5.3)
防露部　ステンレス（ SUS304，t=0.2mm ）で被覆する　表 13.5.4～5
高さ（mm）　床：※ 150　※ 天井：30
防露を行わない場合　ステンレス製シーリングプレートを取り付ける（床、天井共）

⑭ 金属工事

① あと施工アンカー (14.1.3)
引抜き耐力の確認試験
　※ 機械的簡易引抜試験機による引張試験　設計用引張強度［　］
　⊙ 行わない

2 ステンレスの表面仕上げ (14.2.1)
※ ＨＬ仕上げ　・ 鏡面仕上げ　・
施工箇所［ 柱脚　］

3 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)

表 14.2.1

種別	施工箇所	色合
Ｂ－１種		
Ｂ－２種		
Ｃ－１種		

他の項目に特記されたものを除く

4 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)

表 14.2.2

種別	施工箇所	種別	施工箇所
Ａ種			
Ｃ種			

他の項目に特記されたものを除く

5 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2～4)
野縁の種類・間隔：表 14.4.1　表 14.4.2 による。
　屋外の場合、吊りボルト及びインサートピッチ、野縁の間隔は図示による。

6 軽量鉄骨壁下地 (14.5.2～4)
スタッド、ランナー等の種類　表 14.5.1
・ ５０形　・ ６５形　・ ７５形　・ ９０形　・ １００形

7 金属整形板張り (14.6.2～3)

表 14.2.1

種　別	※ アルミスパンドレル
製　法	※ 押出し　・ ロール
寸法(mm)	板幅 板厚 1.5T
表面処理	・ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種
伸縮継手	※ 設けない　・ 設ける（図示による）
形　状	・ 図示　・

8 アルミニウム製笠木 (14.7.2～3)
※ 押出し形材　表 14.7.1
　部材の種類　・ ２５０形（呼称肉厚は 1.6 以上）
　　・ ３００形（呼称肉厚は 1.8 以上）
　　・ ３５０形（呼称肉厚は 2.0 以上）

　表面処理　※ Ａ－１種又はＢ－１種　・
　隅角部及び突当り部等の役物　笠木製造所の仕様による。

・ 曲げ材
　材質　ＪＩＳ Ｈ ４０００による
　表面処理　※ Ａ－１種又はＢ－１種
　厚さ(mm)　・ 2.0　形状は図示による

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を施工計画として提出する。

9 手すり (14.8.2)
材料の種別　・ 配管用鋼管　・ 図示による　・
亜鉛めっき　・ 行わない　・ 行う（ ※ Ｃ種　・　）
役　物　・ 適用する　・ 適用しない

10 タラップ (14.8.3)
材料の種別　・ ステンレス（ SUS 304 ）　・ 鋼製　・ 図示による

11 サッシ取合い間仕切り板
※ アルミニウム製　（表面処理はアルミニウム製建具の項による）
・ 鋼板製　（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯　亜鉛の付着量 Z12 又は F12 ）

12 エキスパンションジョイント金物
材　質　・ アルミニウム製　・
表面処理　・ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種　・
クリアランス　・ ５０　・ １００　・ １５０
耐火性能　・ 図示　・

15 左官工事

1 吸水調整材 (15.2.2)
品質・性能等
　均質で、有害と認められる異物の混入がないこと
　全固形分の許容値 JIS A 6203 に準じた試験において ± 1.0 % 以内であること
　吸水量 JIS A 6916 の試験において、３０分後の吸水量が 1g 以下であること
　接着強度　0.98 N/mm² 以上
　界面破断率　50 % 以下

2 防水剤 (15.2.2)
品質・性能等
　防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする
　混合割合：セメント重量の 5 % 以下（ JIS A 1404 ）
　吸水比：95 % 以下（ JIS A 1404 ）
　浸水比：80 % 以下（ 水圧は 294 KPa とし、1時間行う ）

3 既製目地材 (15.2.2)
・ 使用しない　・ 使用する（形状は図示による）

4 セルフレベリング材塗り (15.4.2～3)

表 15.4.1

種類	厚さ(mm)	施工箇所
※ セメント系	※ １０	
・ せっこう系	・ １０	

(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:	SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR. NO.
		111200	(小椋) ・	・	(讃岐)	DR. NAME	建築工事仕様書（２）	A-02

⑮ 左官工事

5 仕上塗材仕上
(15.5.2)

・ 薄付け仕上塗材　表 15.5.1～2

種　類	仕上げの形状	工　法
・ 外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状	吹付け

・ 厚付け仕上塗材

種　類	仕上げの形状	工　法	上塗材
・ 外装厚塗材Ｅ	・ 吹放し ・ 凸部処理	吹付け	・ 行う ・ 行わない

・ 複層仕上塗材

種　類	仕上げの形状	工法	上塗材（耐候性・耐候形３種）		
※複層塗材	※凸凹模様	吹付け	※水系	※アクリル系	※つやあり
・可とう型複層塗材CE ・複層塗材Si ・複層塗材E ・複層塗材RE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材 E ・防水形複層塗材RS ・防水形複層塗材RE	・ 凸凹模様 ・ 凸部処理 ・ ゆず肌状 ・ ｽﾀｯﾌﾟﾄ状	・吹付け ・ローラー	・水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系	・アクリル系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・フッ素系 ・シリカ系	・つやあり ・つやなし ・メタリック

・ 軽量骨材仕上塗材

種　類	仕上げの形状	工　法
・ 吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け
・ こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗り

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

6 ロックウール吹付け
(15.7.1)

厚さ(mm)　・ 10　・ 15　・ 20　・ 30　・
ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

⑯ 建具工事

① アルミニウム建具
(16.2.2～4)

表 16.2.1

性能等級等	~~※Ａ－１種~~(住宅用)	・Ｂ　種	・Ｃ　種
耐風圧性	※　Ｓ－３	・Ｓ－５	・Ｓ－６
気密性	※　Ａ－４		・Ａ－４
水密性	※　Ｗ－４	・Ｗ－５	・Ｗ－５
枠見込(mm)	◯ ７０	・１００	１００
表面処理	外部　※Ｂ－１種（・Ｂ－２種（・ｱﾉﾊﾞ・・ｱﾉﾛｽﾞ・ｽﾃﾝｶﾗｰ・ﾌﾞﾗｯｸ） 内部　※Ｃ－１種　◯ｶﾗｰ仕様（・ｱﾉﾊﾞ・・ｱﾉﾛｽﾞ　◯ ｽﾃﾝｶﾗｰ・ﾌﾞﾗｯｸ）		

防音 ドアセット　防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱 ドアセット　断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震 ドアセット　内面変形追従性の等級　・Ｄ－１　・Ｄ－２　・Ｄ－３

~~網戸等~~　防虫網の材質　※　合成樹脂製　・　ガラス繊維入り合成樹脂製
・　ステンレス製（ＳＵＳ３１６）
防鳥網の材質　※　ステンレス製（ＳＵＳ３０４）径 1.5mm　ピッチ 15mm
・

② 鋼製建具
(16.3.2)

気密性	※　Ａ－３　・
水密性	※　Ｗ－１　・

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音 ドアセット　防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱 ドアセット　断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震 ドアセット　内面変形追従性の等級　・Ｄ－１　・Ｄ－２　・Ｄ－３

防火戸　煙感知器連動とする　防火戸の解錠機構は別途とする
扉にラッチ受座用切込み開口補強を行う

③ 鋼製軽量建具
(16.4.3)

表 16.4.1

気密性	※　Ａ－３　・
戸の鋼板	※　表面処理亜鉛めっき鋼板　・　ビニル被覆鋼板　・　カラー鋼板
召し合わせ 縦小口包み板	※　ステンレス　・　鋼板　・　アルミニウム
扉の表面材, 押縁	※　鋼板　・　ビニル被覆鋼板
枠　類	※　鋼板(くつずりはステンレス)　・　製作所仕様

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音 ドアセット　防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱 ドアセット　断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震 ドアセット　内面変形追従性の等級　・Ｄ－１　・Ｄ－２　・Ｄ－３

④ 標準型鋼製軽量建具
(16.4.6)

表 16.4.1

戸の鋼板	※　表面処理亜鉛めっき鋼板　・　ビニル被覆鋼板　・　カラー鋼板
召し合わせ 縦小口包み板	※　ステンレス　・　鋼板　・　アルミニウム
扉の表面材, 押縁	※　鋼板　・　ビニル被覆鋼板
枠　類	※　鋼板(くつずりはステンレス)　・　製作所仕様

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音 ドアセット　防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱 ドアセット　断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震 ドアセット　内面変形追従性の等級　・Ｄ－１　・Ｄ－２　・Ｄ－３

⑤ ステンレス製建具
(16.5.3～5)

気密性	※　Ａ－３　・
水密性	※　Ｗ－１　・
表面仕上げ	※　ＨＬ仕上げ　・　鏡面仕上げ　・
曲げ加工	※　普通曲げ　・　角出し曲げ（・　ａ角　・　ｂ角　・　ｃ角）
ステンレス鋼板	※　ＳＵＳ３０４　・ＳＵＳ（　　）

外部に面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音 ドアセット　防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２　・Ｔ－３
断熱 ドアセット　断熱サッシの断熱性の等級　・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３
耐震 ドアセット　内面変形追従性の等級　・Ｄ－１　・Ｄ－２　・Ｄ－３

⑥ 木製建具
(16.6.2)

加工、組立て時の含水率　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　表 16.6.1

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　既製対象外　・　第三種

ふすまの材料　種別　※Ⅱ型　・Ⅰ型　表 16.6.3
上張り紙　・　新鳥の子　・　ビニル紙　・
押入等の裏張り紙　・　雲花紙　・

枠及びくつずり材料　・　図示による　・

材質、形状及び寸法
・　図示及び建具表による
・

⑦ 建具用金物
(16.7.2)(16.7.4)

材質、形状及び寸法　表 16.7.1
・　図示及び建具表による
・

鍵
マスターキー　・　製作する（　　組）　・　製作しない　・　既存に組み込む
鍵箱　・　設ける（　個用　組）　・　設けない
コンストラクションキー　・　適用する　・　適用しない　・　監督職員との協議による

⑧ 自動ドア開閉装置
(16.8.2～3)

センサーの種類　表 16.8.1～3
※　光線（反射）　・　マット　・　電波　・　音波　・　熱線　・　光電
・　タッチ　・　ペダル　・押しボタン　・　多機能便所
取付位置
※　天井面　・　床面　・　壁面　・　無目　・

16 建具工事

⑨ 自閉式上吊り引戸装置
(16.9.3)

自閉式上吊り引戸装置の性能　表 16.9.1
開閉方式　・　手動開き式　・

⑩ 重量シャッター
(16.10.2)

種類
・　一般　・　外壁用防火　・　屋内用防火　・　屋内用防煙

防火又は防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付きとし、
連動制御盤及び煙感知器は別途とする。

耐風圧強度
一般（　　）N/㎡　外壁用（　　）N/㎡

開閉機能による種類　表 16.10.1
※　上部電動式（手動併用）　・　上部手動式
シャッターケース（防火、防煙以外）
・　設ける　・　設けない
危害防止装置
※　障害物感知自動閉鎖型　・　２段降下型

⑪ 軽量シャッター
(16.11.2～4)

開閉形式　表 16.11.1
※　上部電動式（手動併用）　・　手動式
耐風圧強度
（　　）N/㎡
スラットの材質
・　溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G 3312)
・　塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金鋼板(JIS G 3318)
スラットの形状
※　インターロッキング形　・　オーバーラッピング形
シャッターケース
・　設ける　・　設けない
ガイドレールの材質
※　ステンレス製（ SUS 304 ）厚さ 1.5mm （ ※　中柱共　・　　）
・
座板（屋外の場合）
※　ステンレス製既製品　・
危害防止装置
※　障害物感知自動閉鎖型　・　２段降下型

⑫ オーバーヘッドドア
(16.12.2～3)

セクションによる区分
※　スチールタイプ　・　アルミニウムタイプ　・　ファイバーグラスタイプ
耐風圧性能
・　500Pa　・750Pa　・1000Pa　・1250Pa　・1700Pa
開閉方式による区分
※　バランス式　・　チェーン式　・　電動式
収納形式による区分
・　スタンダード形　・　ローヘッド形　・　ハイリフト形　・　バーチカル形
ガイドレールの材質
※溶融亜鉛めっき鋼板　・　ステンレス製（ SUS 304 ）厚さ 2.0mm
危害防止装置
※　障害物感知自動閉鎖型　・　２段降下型

⑬ ガラス
(16.13.2)

◯ 複層ガラス
ガラス組合せ厚さ（　6 mm と　6 mm）
封着剤　※　ブチルゴム　・
空気層　幅（　6 mm）　内部（・乾燥空気　・真空　・ガス（　　））
特殊コーティング　・　無　・　有（　　）

・　熱線反射ガラス
日射熱遮蔽性　・　１種　・　２種　・　３種
耐久性　・　Ａ種　・　Ｂ種
色調　・　ブルー　・　グレー　・　ブロンズ　・　シルバー
反射皮膜　・　内側　・　外側
映像調整　※　行わない　・　行う

⑭ ガラス留め材
(16.13.2)

表 16.13.1

建具の種類	材　種
鋼　製	※　シーリング材
アルミニウム製	※　シーリング材　・　ガスケット　◯ ﾒﾀﾙ仕様
ステンレス製	※　シーリング材
木　製	※　シーリング材

防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による。

⑮ ガラス溝の寸法、形状等
(16.13.3)

表 16.13.1

16 ガラスブロック積み
(16.13.5)

JIS A 5212 に準じるもの

寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面形状

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画として提出する。

17 付属電気設備

電動シャッター、自動扉、電動オーバーヘッドドアの施工範囲は下記による
・　電動シャッター、電動オーバーヘッドドアのシャッター制御盤以降
操作スイッチまでの配線工事　（配管及び位置ボックスは別途工事とする）
・　自動制御盤以降の配線工事　（配管及び位置ボックスは別途工事とする）
・　三相電動機 0.4Kw 以上の場合は、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機
及び進相用コンデンサーを設置

17 カーテンウォール工事

1 カーテンウォール
(17.1.3)(17.2.2～5)
(17.3.2～5)

耐震性能（地震力係数）		気密性	・Ａ－１　・Ａ－２　・Ａ－３ ・Ａ－４
水平方向(KH)	※　1.0　・		
垂直方向(KV)	※　0.5　・	耐火性	・３０分　・１時間
		耐温度差性	
水密性	・Ｗ－１　・Ｗ－２　・Ｗ－３ ・Ｗ－４　・Ｗ－５	遮音性	・Ｔ－１　・Ｔ－２ ・Ｔ－３　・Ｔ－４
耐風圧性	・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６	断熱性	・Ｈ－１　・Ｈ－２　・Ｈ－３ ・Ｈ－４　・Ｈ－５

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）
たわみ量が±(1/150)×ｈかつ絶対量 20mm 以下であること
部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと

層間変位追従性
層間変位量（ｈ＝支点間距離）
鉄骨造　※　±(1/200)×ｈ以上
鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造　※　±(1/300)×ｈ以上
部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと
シーリングは補修程度の損傷であること

その他の性能　図示による

種類　・　メタルカーテンウォール
金属材料の種類（見え掛かり部分の仕上げ）
・　アルミニウム製（　・　Ｂ－１種　・　　）
・　鋼製　（　　）
・　ステンレス製（　　）

・　ＰＣカーテンウォール
ゴンドラ用ガイドレール　・　設置する　・　設置しない
シーリング材　（　　）
構造ガスケット（　　）
断熱材料　（　　）

⑱ 塗装工事

① 材　料
(18.1.3)

屋内に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

防火材料の指定がある場合、建築基準法に基づく指定又は認定を受けたもの。

② 素地ごしらえ
(18.2.1～7)

表 18.2.1～7

木部
・　Ａ種（不透明塗料塗り）　・　Ｂ種（透明塗料塗り）

鉄部他

鉄　鋼　面	・Ａ種	◯ Ｂ種	※　Ｃ種
亜鉛めっき（建具）面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種
亜鉛めっき（建具以外）面	・Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種
モルタル及びプラスター面	・Ａ種	※　Ｂ種	
コンクリート及びＡＬＣパネル面	・Ａ種	※　Ｂ種	
コンクリート及び押出成形セメント板面	・Ａ種	・Ｂ種	
石膏ボード及びその他のボード面	・Ａ種	・Ｂ種	

③ 錆止め塗料塗り
(18.3.1～3)

塗料種別

鉄鋼面　表 18.3.1

	規 格 名 称	種　類	摘　要
◯ Ａ種	◯ 構造物用さび止めペイント	・１種　・２種	・屋内　◯ 屋外
	・ シアナミド鉛さび止めペイント	・１種　・２種	・屋内　・屋外
	・ 鉛, クロムフリーさび止めペイント		・屋内　・屋外
・Ｂ種	・ 一般用さび止めペイント	・１種	・屋内
・Ｃ種	・ 水系さび止めペイント		・１２節

亜鉛めっき鋼面　表 18.3.2

	規 格 名 称	摘　要
・Ａ種	・ 鉛酸カルシウムさび止めペイント	・屋内　・屋外
・Ｂ種	・ 変性エポキシ樹脂プライマー	・屋内　・屋外
・Ｃ種	・ 水系さび止めペイント	・１２節

塗り工程種別

鉄鋼面　表 18.3.3
見え掛かり部分　（ ※ Ａ種　・Ｂ種 ）
見え隠れ部分　（ ・ Ａ種　・Ｂ種 ）

亜鉛めっき鋼面　表 18.3.4
鋼製建具等　（ ※ Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種）
その他　（ ・ Ａ種　・Ｂ種　※ Ｃ種[変性エポキシ樹脂プライマー]）

4 合成樹脂調合ペイント塗り
(18.4.3)(18.4.4)

木部　表 18.4.1
※　１種　・　２種
鉄鋼面　表 18.4.2
・　Ａ種　※　Ｂ種

5 クリヤラッカー塗り
(18.5.2)

表 18.5.1
・　Ａ種　※　Ｂ種

6 フタル酸樹脂エナメル塗り
(18.6.2)(18.6.3)

木部　表 18.6.1
・　Ａ種　※　Ｂ種
鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面　表 18.6.2
・　Ａ種　※　Ｂ種

7 アクリル樹脂系非水分散形
塗料塗り　(18.7.2)

表 18.7.1
・　Ａ種　※　Ｂ種

8 アクリル樹脂エナメル塗り
(18.8.2)

表 18.8.1
・　Ａ種　※　Ｂ種

⑨ ２液形ポリウレタンエナ
メル塗り　(18.9.2～4)

表 18.9.1～3
表 18.9.1～3 による

10 アクリルシリコン樹脂エナ
メル塗り　(18.10.2～4)

表 18.10.1～3
表 18.10.1～3 による

11 常温乾燥形ふっ素樹脂エナ
メル塗り　(18.11.2～4)

表 18.11.1～3
表 18.11.1～3 による

12 つや有合成樹脂エマルショ
ンペイント塗り
(18.12.2～5)

表 18.12.1～4
表 18.12.1～4 による

13 合成樹脂エマルションペイ
ント塗り　(18.13.2)

表 18.13.1
・　Ａ種　※　Ｂ種

14 合成樹脂エマルション模様
塗料塗り　(18.14.2)

表 18.14.1
・　Ａ種　※　Ｂ種

15 ウレタン樹脂ワニス塗り
(18.15.2)

表 18.15.1
・　Ａ種　※　Ｂ種

16 オイルステイン塗り
(18.16.2)

表 18.16.1
表 18.16.1 による

17 マスチック塗材塗り
(18.17.2)

表 18.17.1
種別
・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種
仕上げ塗材塗り
・　アクリル樹脂エナメル　・　つや有合成樹脂エマルションペイント

19 内装工事

1 接着剤

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

2 ビニル床シート
ビニル床タイル
及びゴム床タイル
(19.2.2～3)

ビニル樹脂系材料の原材料
再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で 15%　以上使用されていること。
（JIS A 5705(ビニル系床材) に規定されるビニル系床材の種類で記号ＰＦに該当するものを除く）

・　ビニル床シート

種　類	記　号	柄	厚さ(mm)	工　法
※　発泡層のないもの ・	※　ＮＣ ・	・　プレーン ・　マーブル ・　特殊柄 ・	・　2.0 ・　2.5 ・	・　突付け ・　熱溶接 ・

・　ビニル床タイル

種　類		記　号	厚さ(mm)	柄
・　ホモジニアス		ＨＴ	※　2.0	・　プレーン
・　コンポジション	・置敷き	ＨＴ	※　5.0	・　マーブル
	※半張賃	ＣＴ	※　2.0	・　特殊柄
	・軟質	ＣＴＳ		・

・　特殊機能床材（帯電防止）

種　類	記　号	厚さ(mm)	
・　帯電防止床シート	ＮＣ		帯電防止性能評価(JIS A 1455) 1.2以上3.2未満
・　帯電防止床タイル	ＣＴＳ	※　2.0 ・	又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454) 1×10^{7} ～$10^{10}\Omega$ 程度

・　特殊機能床材（帯電防止以外）

種　類	厚さ(mm)	寸法(mm)	材　料	色柄
・　誘導用床材, 注意喚起用床材 (表面形状 JIS T 9251)	※ 2.0 ・	・ 400×400 ・ 300×300	※ 塩ビ　・ 合成ゴム ・ 合成ゴム　・	黄色

・　ゴム床タイル

使 用 箇 所	厚さ(mm)	色　柄

ビニル幅木　・　H=60mm　・　H=75mm

3 カーペット敷き
(19.3.3～4)

表 19.3.2
・　織ジュータン　（※　帯電防止性能　JIS L 1023 の人体帯電圧 3kv 以下とする。）
・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種

・　タフテッドカーペット
パイル形状　：
パイル長さ　：
工　法　：

・　ニードルパンチカーペット
厚　さ　：

・　タイルカーペット　表 19.3.2
種　類　：※　１種　・　２種
パイル形状　：※　ループパイル　・　カットパイル
寸　法　：※　500角　・
総厚さ　：※　6.5mm　・
電気抵抗　：※　適用しない　・　109 以下（JIS L 1904　23℃25%RH）
工　法　：※　全面接着　・　のり付加工品敷
見切り、押さえ金物の材質
種　類　：
形　状　：

4 合成樹脂塗床
(19.4.2～3)

・　弾性ウレタン塗り床材　表 19.4.3
仕上げの種類　※　平滑仕上げ　・　防滑仕上げ　・　つや消し仕上げ

・　エポキシ樹脂塗り床材　表 19.4.4～7
仕上げの種類　・　薄膜流し展べ仕上げ　・　厚膜流し展べ仕上げ
・　樹脂モルタル仕上げ　・　防滑仕上げ

屋内に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

5 フローリング張り
(19.5.2～7)

複合フローリングのホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

種別、工法
・　単層フローリング
（　・　フローリングボード　・　フローリングブロック　・　モザイクパーケット　）
・　乾式工法（　・　釘止め工法　・　接着工法　・　　）
・　湿式工法
・　複合フローリング
（　・　１種　・　２種　・　３種　）
（　表装　・　・　種　・　・　　）
・　乾式工法（　・　釘止め工法[・１種][・２種][・３種]　・　接着工法　）
・　湿式工法

仕上げ
※　ウレタン樹脂ワニス　・　生地のままワックス

県産材の活用
・　適用しない
・　適用する（樹種　・　・　・　・　・　　）

6 畳敷き
(19.6.2)

表 19.6.1
種別
・　Ａ種　・　Ｂ種　・　Ｃ種　※　Ｄ種
Ｄ種の場合の畳床記号
・　ＫＴ－Ⅰ　・　ＫＴ－Ⅱ　・　ＫＴ－Ⅲ　・　ＫＴ－Ｋ　・　ＫＴ－Ｎ

7 石膏ボード、その他ボード
及び合板張り
(19.7.2)

材種・規格	施工箇所	張　り　方		厚さ等 (mm)
・ ・ JIS A 6901 規格品 厚さ9.5は ・ 準不燃認定品 ・ 不燃認定品	・壁	・下張り	突付け	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品）
		・上張り ・直張り ・	・目透し ・突付け ・継目処理 ・突付けＶ目地	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品） ・　mm×　mm ・　mm×　mm
	・天井	・下張り	突付け	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品）
		・上張り ・直張り ・	・目透し ・突付け ・継目処理 ・突付けＶ目地	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品） ・　mm×　mm ・　mm×　mm
・ 化粧ｹｲｶﾙ板 ・	・壁 ・天井	・下張り	突付け	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品）
		・上張り ・直張り ・	・目透し ・突付け ・継目処理 ・突付けＶ目地	・ 9.5 ・ 12.5（不燃認定品） ・ 6　（不燃認定品） (既存ｴｰｱﾝﾄﾞｴｰﾏﾃﾘｱﾙ ｽﾀﾝﾄﾞ #400)

天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの

合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・　第三種

パーティクルボード、繊維板、木質セメント板の原材料
合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済み梱包材、製紙未利用低質チップ
林地残材、かん木、小径木、(間伐材を含む) 等の再生資源である木質材料又は植物繊維の重量比配合
割合が 50%　以上であること。（この場合、再生資材全体に占める体積比配合率が 20%　以下の接着
剤、混和剤等（パーティクルボードにおけるフェノール系接着剤、木質系セメント板におけるセメン
ト等で主要な原材料相互間を接着する目的で使用されたもの）を計上せず、重量比配合率を計算する

(有)MEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管　理　建　築　士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃　岐　英　夫

設　計　者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃　岐　英　夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
	111200	小椋 ・	・	讃岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
DR.NAME	建築工事仕様書（３）	A-03

19 内装工事

8 壁紙張り (19.8.2)

建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたもの

施　工　箇　所	品　　質	防火性能の級別

ホルムアルデヒド放散量
　※　規制対象外　　・　第三種

9 断熱材打込み工法 (19.9.2)

断熱材の種類

※　押出法ポリスチレンフォーム保温板２種ｂ
　　［ 厚さ ： ※　25mm　　・　　mm ］
・　押出法ポリスチレンフォーム保温板３種ｂ　（施工箇所：土間下）
　　［ 厚さ ： ※　25mm　　・　　mm ］
・硬質ウレタンフォーム保温板１種２号
　　［ 厚さ ： ※　20mm　　・　　mm ］

断熱補修材

※　吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材（次項による）
・　断熱材と同材

ロックウール，グラスウール，ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量
　※　規制対象外　　・　第三種

10 断熱材現場発泡工法 (19.9.3)

断熱材の種類
※　Ａ種　　・　Ｂ種

厚さ
・　２５　・　３０　・

施工箇所
※　窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフドレイン廻りの床版下等
　部分的に後張りとしなければいけない箇所
・　図示による
・

11 断熱材の原材料

グラスウール
　再生資源利用率は、原材料の重量比で８０％以上であること。

ロックウール
　再生資源利用率は、原材料の重量比で８５％以上であること。

発泡プラスチック断熱材
　オゾン層を破壊する物質を使用していないこと。
　長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること。

20 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア (20.2.2)

施 工 箇 所		
構法	・ パネル構法　・ 溝構法	・ パネル構法　・ 溝構法
耐震性能	・ 1.0 G　・ 0.6 G	・ 1.0 G　・ 0.6 G
耐荷重性能	※ 3,000 N　・ 5,000 N	・ 3,000 N　・ 5,000 N
パネル寸法(mm)		
仕上がり高さ(mm)		
床表面材質仕上げ材の材質	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル
ボーダー部及びスロープ	※ メーカー仕様　・ 図示	

構成材の種類
・　アルミダイカスト　　・　スチール（モルタル充填）　　・　スチール
・　けい酸カルシウム＋スチール　　・　樹脂系　　・　コンクリート＋樹脂
・　ガラス繊維混入セメント板　　・　図示による

ローリングロード性能
・　適用する　　・　適用しない

ローリングロード試験
　耐荷重性能（3,000N）
　　積載荷重 1,000N の際、最大変形量 1.5mm 以下
　　（使用上有害な変形、欠け、割れ、がたつきなどの欠点がないこと）
　耐荷重性能（5,000N）
　　積載荷重 1,000N の際、最大変形量 1.0mm 以下
　　（使用上有害な変形、欠け、割れ、がたつきなどの欠点がないこと）

マーカー　：　　（　　個）
ケーブル保護カバー　：　（　　個）

2 可動間仕切り (20.2.4)

JIS A 6512 によるほか、下記による

構造形式による種類
　※　スタッド式（・　スタッド露出　　・　スタッド内蔵 ）　　・　スタッドパネル式
構成材の種類　：　図示による

表面材質及び厚さ
　※　鋼板 0.6mm　　・　鋼板0.8mm
パネル表面仕上げ
　メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付（ ・　常備色　　・　指定職 ）

パネル厚さ　：　　mm 程度
遮音性の区分
　・　０　　・　１２　　・　２０　　・　２８　　・　３６

防火性能
　・　不燃　　・

3 移動間仕切り (20.2.4)

パネルの操作方法による種類
　・　製造所の仕様による　　・　図示による

表面材質及び厚さ
　※　鋼板 0.6mm　・
仕上げ
　メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付（ ・　常備色　　・　指定職 ）

パネル厚さ　：　　mm
パネル圧接装置の操作方法
　・　製造所の仕様による　　・　図示による

遮音性の区分
　・　３６未満　　・　３６以上

4 トイレブース (20.2.5)

表面材
　※　メラミン樹脂化粧板　　・　ポリエステル樹脂系化粧板
　・

ドアエッジ材質形状
　※　アルミＲエッジ　　・
幅木材質形状
　※　ステンレス幅木　　・

5 階段滑り止め (20.2.6)

材種
　・　ステンレス製(SUS304)（ ・　埋込工法　　※ 接着工法 ）
　・　アルミ製（ ・ 埋込工法　　※ 接着工法 ）

端部フラットエンド
　・　有（ ※ タイヤと同材　　・ ステンレス鋼 ）　　※　無

型式
　※　ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り　　・

幅
　※　約 35 mm　　・　　mm

6 黒板及びホワイトボード (20.2.8)

・　ホワイトボード
　材質　（ ※ 焼付け　　・ ほうろう ）
　枠　（ ・ アルミ合金製　　・ ステンレス製 ）

・　黒板
　材質　（ ※ 焼付け　　・　　）
　色彩　（ ※ 緑　　・　　）

7 表示 (20.2.10)

・　案内板
　　・　庁舎案内板（ ※　図示による　　・　市販品 ）
　　・　各階案内板（ ※　図示による　　・　市販品 ）
　　・　視聴覚障害者用案内板（ ※　図示による　　・　市販品 ）
・　室名札
　※　図示による　　・　市販品
・　ピクトグラフ
　※　JIS Z 8210 による　　・　図示による
・　庁名文字
　※　図示による
　・　切抜文字（ ・　ステンレス製　　・　黄銅製 ）
　・　箱文字　（ ・　ステンレス製　　・　黄銅製 ）
　　字数（　　）文字の大きさ（　　×　　）
・　対人衝突防止表示
　※　図示による
　・
・　非常用進入口等の表示
　※　図示による
　・

8 煙突ライニング (20.2.11)

適用安全温度
　※　４００℃
　・　６５０℃

9 ブラインド (20.2.11)

形　　式	・ 横形ブラインド	・ 縦形ブラインド（防炎性能を有するもの）
スラットの材種	アルミニウム合金製	・ アルミスラット　　・ クロススラット
ブラインドの種類	※ ギヤ式　・ コード式	※ 1本操作コード方式
スラットの幅 (mm)	※ 25　・ 35	・ 75 以上　・ 100

10 ロールスクリーン (20.2.13)

材種　：［　　］
品質　：［　　］

11 カーテン及びカーテンレール (20.2.14)

カーテン

施工箇所	きれ地の品質等	ひだの種類	開 閉 方 式	操作方式
			・ 片引き　・ 引分け	※手動　・電動

カーテンレール及び付属金物

施工箇所	強さによる区分	材料による区分	仕上げ	形　状	付属金物

暗幕用カーテンの重ねかけ（両端、下端及び召し合わせ）　※　300 以上　　・

12 点検口

天井
　材種　：　※　アルミニウム製［ ・　450mm×450mm　　・　600mm×600mm　　・　　mm×　mm ］
　　・　　製［ ・　450mm×450mm　　・　600mm×600mm　　・　　mm×　mm ］
　形式　：　外枠［ ・　額縁タイプ　　・　目地タイプ ］
　　内枠［ ・　額縁タイプ　　・　目地タイプ ］

床
　材種　：　※　アルミニウム製［ ・　450mm×450mm　　・　600mm×600mm　　・　　mm×　mm ］
　　・　　製［ ・　450mm×450mm　　・　600mm×600mm　　・　　mm×　mm ］

13 鋼製書架及び物品棚

・　固定式（下記以外は図示による）
　鋼製書架　　※　JIS S 1039 による　　・　法務省型
　鋼製物品棚　　・　JIS S 1040 による

・　移動式
　形状等は図示による

14 くつふきマット

・　塩化ビニル製　　（受け枠ステンレス製）ワンライン型
・　硬質アルミニウム製（受け枠ステンレス製）

15 フェンス

網形式
　・　メッシュ　　・　ひし形　　・

線径　［　　mm］　　網目のサイズ　［　　mm］

仕上げ
　・　ビニル被覆　　・　亜鉛めっき　　・

基礎
　・　既製コンクリートブロック［　　mm×　　mm×　　mm］
　・

⑯ 天井見切縁

材種
　・　アルミニウム既製品　　⊙ ビニル既製品　　・

17 ピクチャーレール

※　見切縁兼用タイプ　　・
　移動フック［　　個/m］　安全荷重［ ※　15kg 以上　　・　　］

18 誘導用床材 注意喚起用床材

材種
　・　コンクリート製［ ・60t　　・　　］
　・　磁器質タイル製
　・

表面形状
　※　JIS T 9251 による　　・　図示による

寸法
　※　300mm × 300mm　　・　　mm ×　　mm

色
　※　黄色　　・　　色

19 旗　竿

形式
　・　ロープ式（テーパー式）　　・　ハンドル式（テーパー式又は同一断面式）

材種
　・　アルミニウム合金　　・

高さ　［　　m ］

20 ユニット及びその他工事

20 既製家具

合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボード、接着剤及び塗料のホルムアルデヒド放散量
　※　規制対象外　　・　第三種

21 アスベスト成形板の処理工事

処理を行うアスベスト成形板の仕様等

材　料　名	厚さ (mm)	処理を行う範囲

施工調査
　※　行う　　・　行わない

石綿作業主任者
　特定科学物質等作業主任者技能講習を終了した者の内から選任する。

特別管理産業廃棄物管理責任者
　保温材については、排出事業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理させる。

官公署その他への手続き
改修標準仕様書(9.1.3(b)(2))によるほか、次の必要な手続きを行う。
　（１）　建築物解体等作業届（所管労働基準監督署）
　（２）　特別管理産業廃棄物管理責任者設置報告書（都道府県知事又は市長）

安全衛生管理
　洗浄設備
　　（ｉ）　洗眼、うがいの設備を設ける。
　　（ii）　更衣設備等を設ける。

表示・掲示
　改修工事標準仕様書(9.1.2(c)(4))による表示・掲示を行う。

作業場の養生
　処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉塵飛散を防止する。
　　対象室（　　）
　改修工事標準仕様書(9.1.2(c)(4))による表示・掲示を行う。

除去物及び汚染物の処分等
　保温材については、改修工事標準仕様書(9.1.2(d)(2))による。

21 排水工事

1 排水管 (21.2.1)

・　遠心力鉄筋コンクリート管
　種類　　※　外圧管Ｂ形１種　　・
　継ぎ手　※　ゴム接合　　・

・　硬質塩化ビニル管
　・　ＶＰ
　・　ＶＵ
　・　建築排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管（ＲＦ－ＶＰ）
　・　排水用リサイクル硬質塩化ビニル管（ＲＥＰ－ＶＵ）
　　建物外での硬質塩化ビニル管であって使用済み塩化ビニル管を原材料とする塩化ビニルが製品全体重量比で ３０％ 以上使用されていること。

2 側塊、排水枡等 (21.2.2)

・　鋳鉄製ふた
　形式
　　※　水封型　　・　簡易密閉型　　・　密閉型　　・　中ふた付密閉型
　適用荷重　（安全荷重[kN]）
　　屋内用　　※　Ｔ－２用(5)
　　屋外用　　・　Ｔ－２用(5)　　※　Ｔ－６用(15)　　・　Ｔ－２０用(50)

・　グレーチング
　材質
　　・　鋼製　　・　ステンレス製
　耐荷重は図示による。

22 舗装工事

1 路床 (22.2.2~5)

路床の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による

盛土に用いる材料（表3.2.1による）
　・　Ａ種　　※　Ｂ種　　・　Ｃ種　　・　Ｄ種　　・　建設汚泥から再生した処理土

支持力比（ＣＢＲ）試験
　※　行わない　　・　行う（ ※乱した土　・乱さない土）

締固め度の試験
　※　行わない　　・　行う

砂の粒度試験
　※　行わない　　・　行う

路床安定処理用追加材料　　表 22.2.2
　［　　］

2 路盤 (22.3.2~5)

路盤の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による

路盤材料
　※　再生材のクラッシャラン　　・　クラッシャラン鉄鋼スラグ

締固め度の試験
　※　行わない　　・　行う

3 アスファルト舗装 (22.4.2~6)

舗装の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による

アスファルト
　・　再生アスファルト　　・　ストレートアスファルト

骨材
　※　砕石　　・　アスファルトコンクリート再生骨材

　※　アスファルト舗装
　　加熱アスファルト混合物等の種類　　表 22.4.6
　　※　表層　　・　密粒度アスファルト混合物(13)　　・　細粒度アスファルト混合物(13)
　　・　基層　　・　粗粒度アスファルト混合物(20)

　・　カラー舗装
　　種類
　　※　表層に着色した加熱アスファルト混合物
　　・　表層の上に着色舗装又は樹脂系混合物
　　・　表層に上に常温塗布式舗装又はニート工法による樹脂系舗装

　　カラー舗装に添加する着色骨材
　　・　有色骨材（材質 ＜　　＞）
　　・　着色骨材（材質 ＜　　＞）
シルコート
　※　行わない　　・　行う

アスファルト混合物の抽出試験
　※　行わない　　・　行う

舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする。

4 コンクリート舗装 (22.5.2~6)

舗装の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による

溶接金網
　・　使用しない　　※　使用する［　　mm×　　mm×　　φ］
コンクリート版の厚さの試験
　※　行わない　　・　行う

転圧コンクリート舗装の工法
　早強セメントを　［ ・　用いる　　・　用いない ］
注入目地材の種別
　・　低弾性タイプ　　・　高弾性タイプ

コンクリートの設計強度、スランプ、粗骨材の最大寸法は図示による。
舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする。

5 透水性アスファルト舗装 (22.6.2~6)

舗装の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による
アスファルト混合物の抽出試験
　※　行わない　　・　行う

6 排水性アスファルト舗装 (22.7.2~6)

舗装の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による
アスファルト混合物の抽出試験
　※　行わない　　・　行う

7 ブロック系舗装 (22.8.2~3)

舗装の構成
　・　標準詳細図による　　・　図示による

　・　インターロッキングブロック
　　材質
　　・　コンクリート　　・
　　種類
　　・　普通　　・　透水性　　・　植生用
　　形状
　　・　長方形　　・　正方形　　・　六角形　　・
　　厚さ
　　・　60mm　　・　80mm　　・　100mm　　・
　　表面加工
　　・　しない　　・　する［ ・ショット仕上げ　　・　　］
　　クッション材
　　・　砂　　・　空練りモルタル　　・

　・　再生材を用いた舗装用ブロック（焼成）
　　再生材が原材料の重量比で 20% 以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。重金属等有害物質の含有や、施工時及び使用時に雨水等による重金属等有害物質の溶出について、土壌の汚染に係る環境基準等に照らして問題がないこと。

再生材料の原料となるもの	前処理方法
砕石及び窯業廃土、無機珪砂(ｷｻﾞ)、鉄鋼スラグ、非鉄スラグ、鋳物砂、陶磁器屑、石灰炭、建設廃材(汚泥を除く)、廃ガラス製紙スラッジ、アルミスラッジ、磨き砂汚泥、石材屑	前処理方法によらず対象
都市ゴミ焼却灰	溶融スラグ
下水道汚泥	焼却灰又は溶融スラグ化
上水道汚泥	前処理方法によらず対象
湖沼等の汚泥	

8 区画線

※　路面表示用塗料（JIS K 5665（路面表示用塗料）による）
　・　１種　　・　２種　　※　３種１号
・　低揮発性有機溶剤型の路面表示用塗料
　　水性型の路面表示用塗料であって、揮発性有機溶剤(VOC)の含有率（塗料総質量に対する揮発性溶剤の質量の割合）が 5% 以下であること。

　色
　　・　白　　・　黄色　　・
　塗布幅
　　※　図示　　・
　塗布厚さ
　　※　1.0 mm　　・　図示による

23 植栽工事

1 植栽地の確認 (23.1.3)

土壌の酸度試験
　※　行わない　　・　行う

水溶性塩類(EC)の試験
　※　行わない　　・　行う

排水
　・　設置しない　　・　設置する［ ・暗渠　・開渠　・排水層　・縦穴排水 ］

2 植栽基盤 (23.2.2~3)

・　整備工法
　樹木
　　※　行わない　　・　行う［ ※Ａ種　・Ｃ種　・Ｄ種 ］
　芝及び地被類
　　・　行わない　　※　行う［ ※Ｂ種　・　　］

・　植込み用土
　　※　現場発生土の良質土　　・　客土

・　土壌改良材
　　施工箇所［　　］
　　・　バーク堆肥
　　・　発酵下水汚泥コンポスト
　　・

3 支柱材 (23.3.2)

・　丸太(杉の焼き丸太)　　・　丸太(間伐材)　　・　真竹　　・　竹
・

4 新植樹木の枯補償 (23.3.4)

※　１年間　　・

5 移植樹木の枯損処置 (23.3.6)

※　１年間　　・

(有)MEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

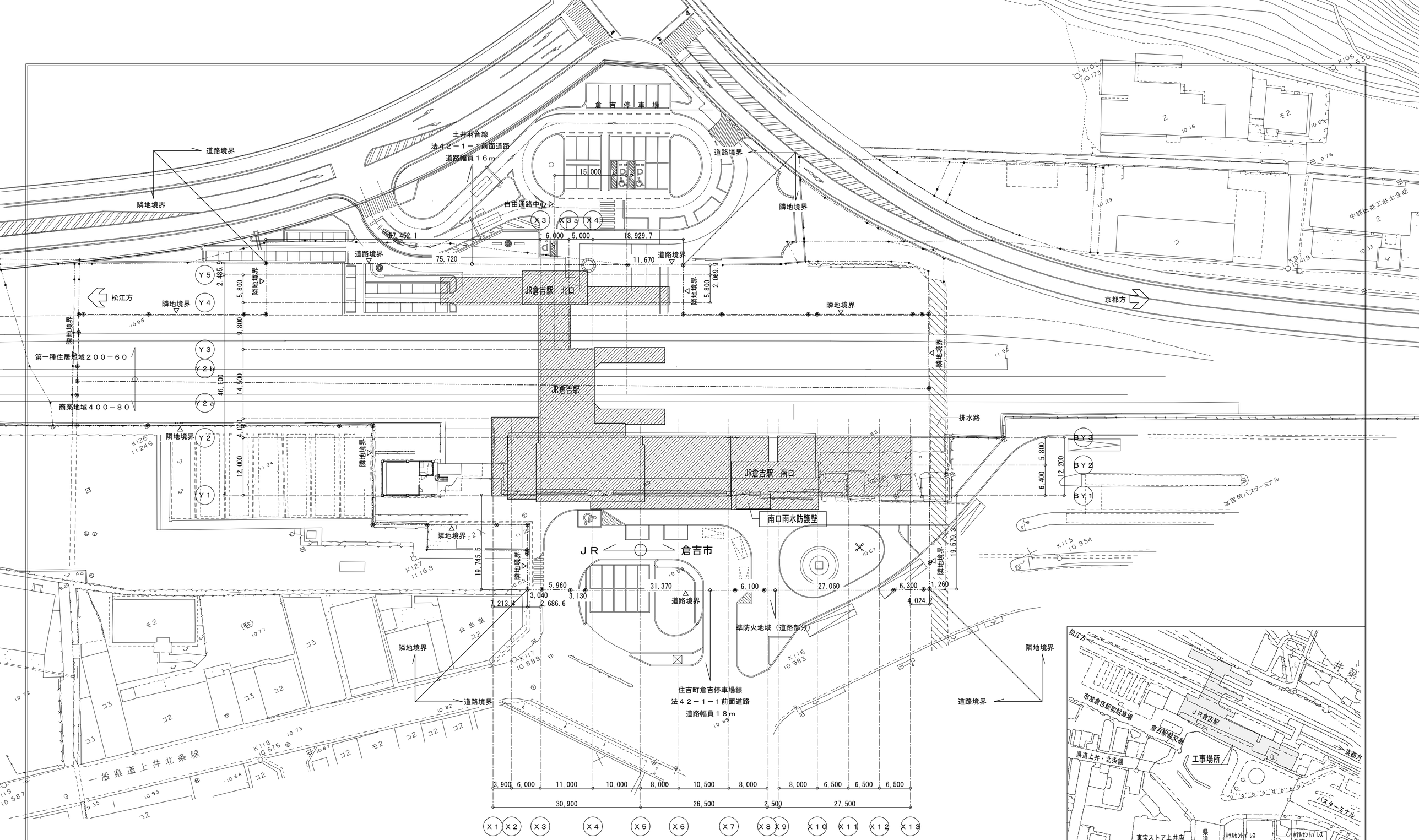
１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管　理　建　築　士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃　岐　英　夫

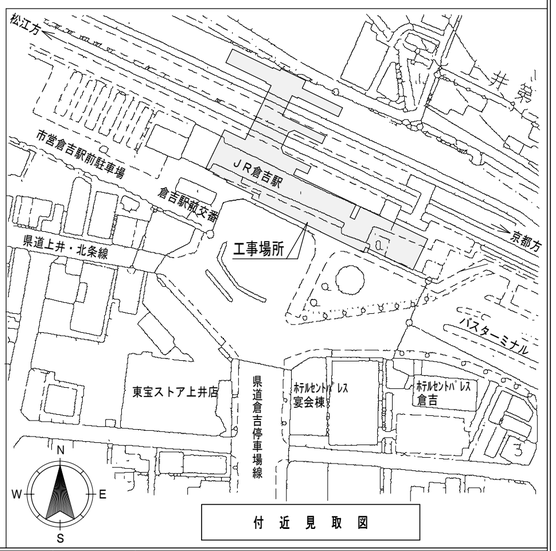
設　計　者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃　岐　英　夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
	111200	小椋 ・	・	讃岐

TITLE　倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事
DR.NAME　建築工事仕様書（４）
DR.NO.　A-04





(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

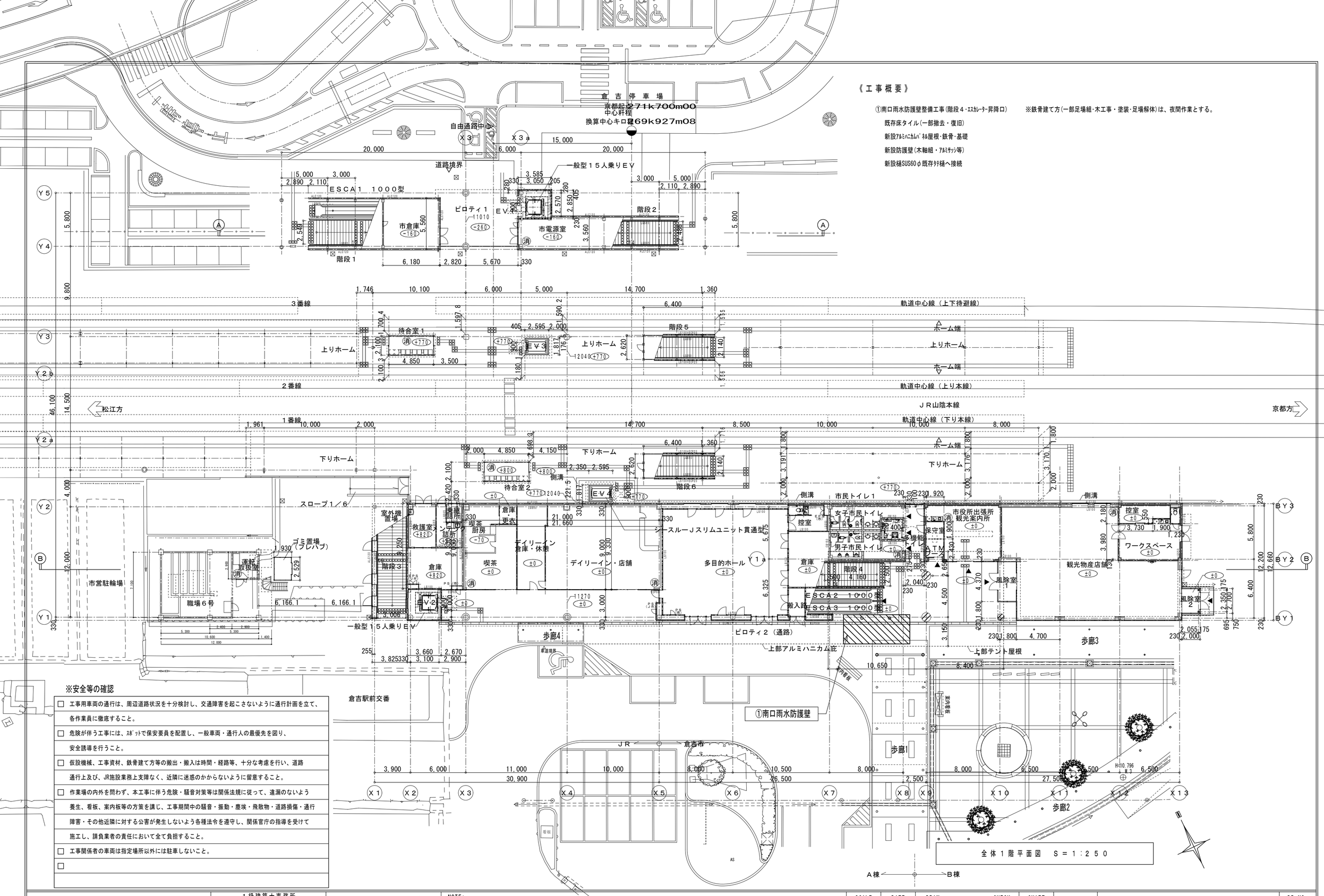
１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
1:500	111200	小椋	・	讃岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR. NO.
DR. NAME	付近見取図　全体配置図	A-05



全体１階平面図　Ｓ＝１：２５０

《工事概要》

①南口雨水防護壁整備工事(階段４・ｴｽｶﾚｰﾀｰ昇降口)　　※鉄骨建て方(一部足場組・木工事・塗装・足場解体)は、夜間作業とする。

既存床タイル(一部撤去・復旧)

新設ｱﾙﾐﾊﾆｶﾑﾊﾟﾈﾙ屋根・鉄骨・基礎

新設防護壁(木軸組・ｱﾙﾐｻｯｼ等)

新設樋SUS60φ既存ﾀﾃ樋へ接続

※安全等の確認

- ☐ 工事用車両の通行は、周辺道路状況を十分検討し、交通障害を起こさないように通行計画を立て、各作業員に徹底すること。
- ☐ 危険が伴う工事には、ｽﾎﾟｯﾄで保安要員を配置し、一般車両・通行人の最優先を図り、安全誘導を行うこと。
- ☐ 仮設機械、工事資材、鉄骨建て方等の搬出・搬入は時間・経路等、十分な考慮を行い、道路通行上及び、JR施設業務上支障なく、近隣に迷惑のかからないように留意すること。
- ☐ 作業場の内外を問わず、本工事に伴う危険・騒音対策等は関係法規に従って、違漏のないよう養生、看板、案内板等の方策を講じ、工事期間中の騒音・振動・塵埃・飛散物・道路損傷・通行障害・その他近隣に対する公害が発生しないよう各種法令を遵守し、関係官庁の指導を受けて施工し、請負業者の責任において全て負担すること。
- ☐ 工事関係者の車両は指定場所以外には駐車しないこと。
- ☐

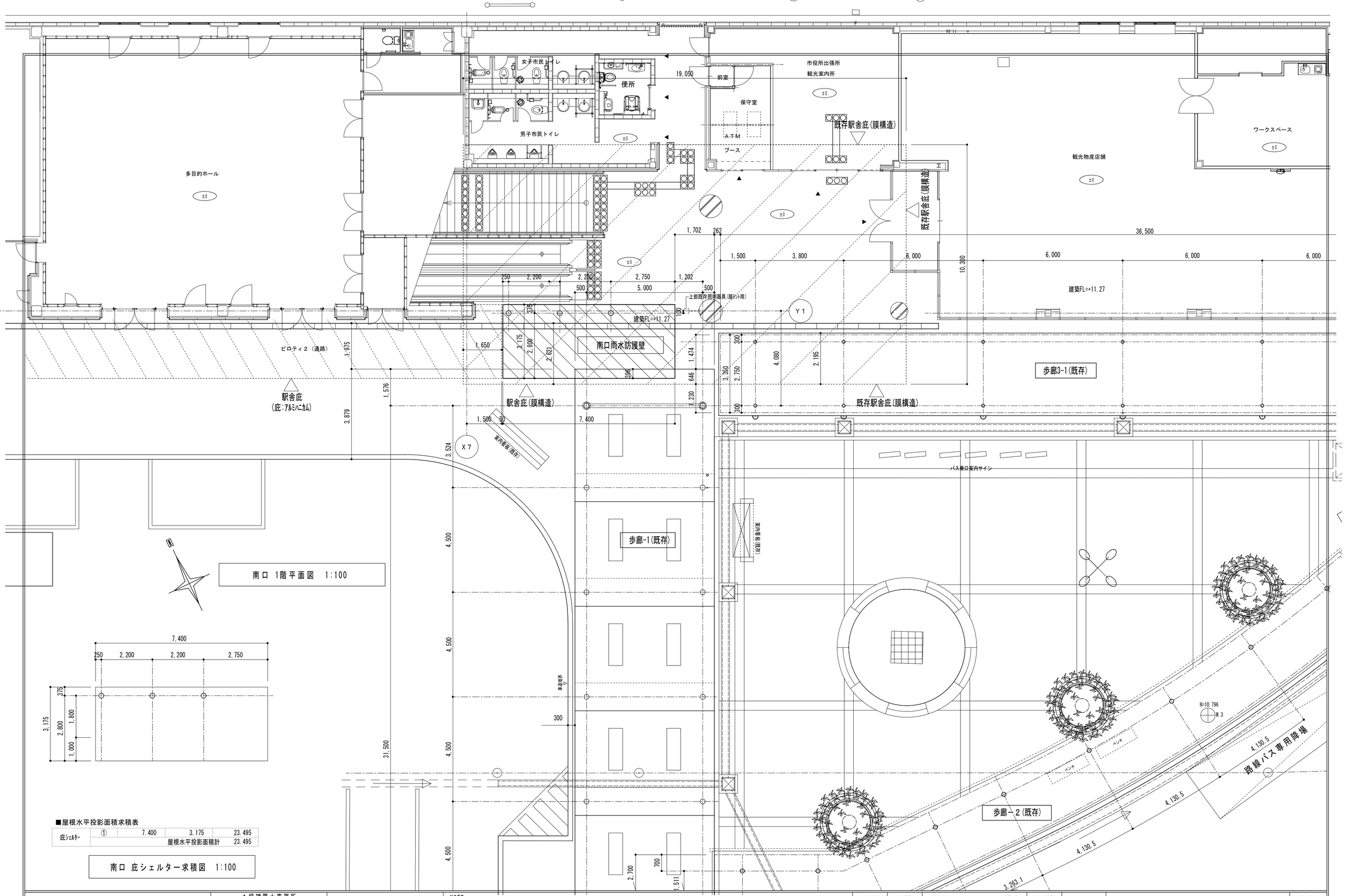
(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	DR.NO.
1:250	111200	小椋	・	讃岐	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	A-06
					DR.NAME 全体1階平面図・工事概要	



南口 1階平面図 1:100

■屋根水平投影面積求積表

庇ｼｪﾙﾀｰ	①	7,400	3,175	23,495
			屋根水平投影面積計	23,495

南口 庇シェルター求積図 1:100

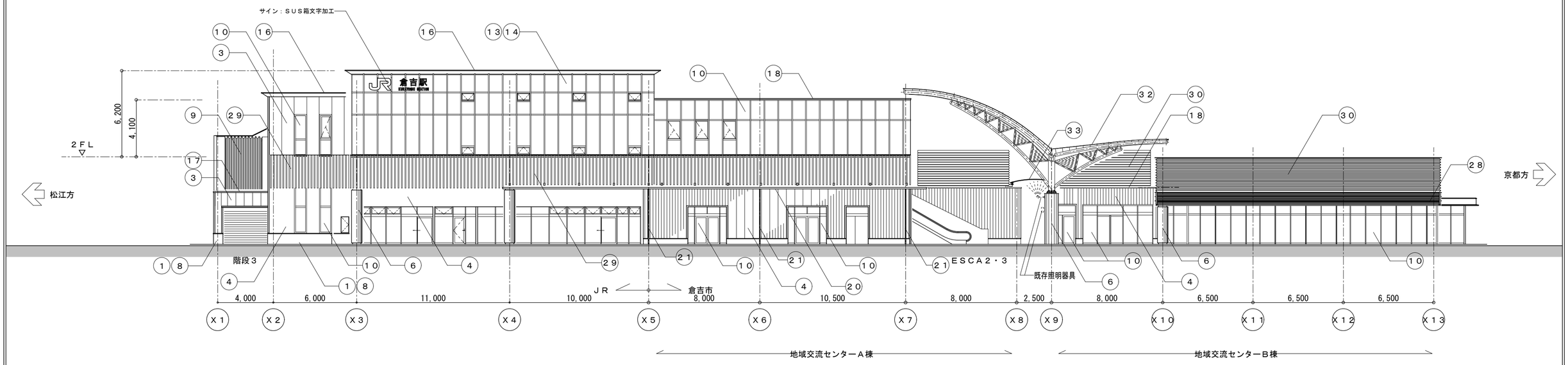
(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003 FAX:0858-26-7570

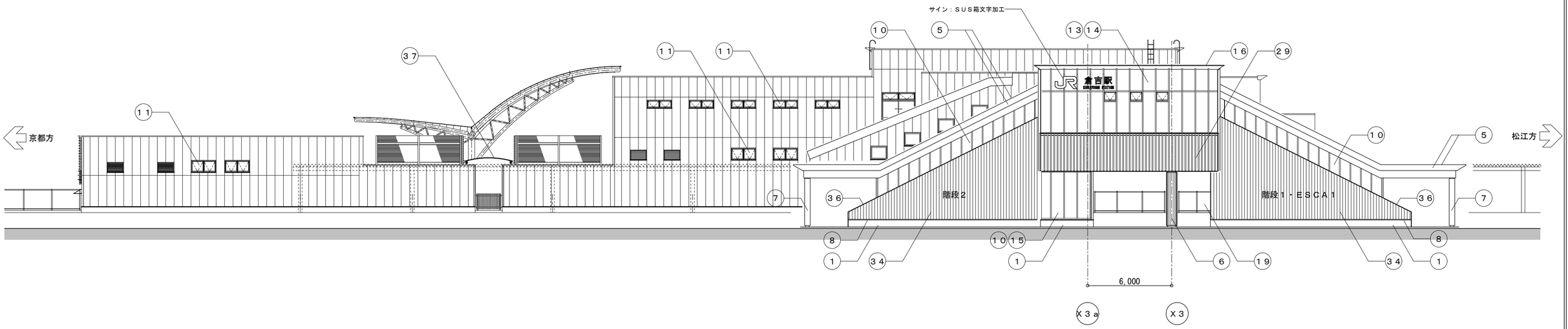
１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士 大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士 大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
1:100	111200	小椋	・	讃岐	DR.NAME	南口 1階平面図・求積図	A-07





記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
①	コンクリート打放しの上　複層塗材Ｅ	⑦	円柱　アルミｔ２曲げ加工　Ｂ－ＦＵ	⑬	アルミカーテンウォール　Ｂ－１ （内部方立：集成材ＵＣ（タモ程度）外部リブ：ティンパータイル）	⑲		㉕		㉛	
		⑧	アルミ水切	⑭	複層ガラスＰ６＋Ａ６＋ＨＡＰ６	⑳	アルミハニカムパネルｔ１００屋根：浪速工藝社　ｱﾙﾐﾊﾆｶﾑﾊﾟﾈﾙ同等品 支持鋼材亜鉛メッキ下地の上　ＦＵＥ	㉖		㉜	テント（Ａ種膜材）屋根：太陽工業　同等品 支持鋼材亜鉛メッキ下地の上　ＦＵＥ
③	押出成型セメント板ｔ６０　縦張　Ｗ６００　複層塗材Ｅ	⑨	カラーガルバリウム鋼板ｔ０．８　折板葺山高１５０	⑮	複層ガラスＰ６＋Ａ６＋Ｐ６	㉑	竪樋：ＳＵＳ既製品６０φＨＬ	㉗		㉝	ろう付アルミハニカムパネルｔ５０屋根 支持鋼材亜鉛メッキ
④	タイル下地用ＥＣＰｔ６０の上 せっ器質ボーダータイル２５×２００接着張り	⑩	アルミサッシ　Ｂ－２	⑯	アルミ笠木Ａ　アルミｔ２曲げ加工Ｂ－ＦＵ（立体ボーダー）	㉒		㉘	アルミ化粧ルーバー　RIKEN　ｽﾀｲﾌｨｯﾄSHS-2015-2060　B-2同等品	㉞	ＡＬＣｔ１２０　縦張　Ｗ６００　複層塗材Ｅ（リブ付）
⑤	アルミｔ２曲げ加工Ｂ－ＦＵ	⑪	アルミサッシ　Ｂ－１	⑰	アルミ笠木Ｂ　アルミｔ２曲げ加工Ｂ－２　（フラットボーダー）	㉓		㉙	押出成型セメント板ｔ６０　複層塗材Ｅの上 ティンパータイルリブ：ｶﾆｺﾛ耐火　ﾃｨﾝﾊﾟｰﾀｲﾙ同等品	㉟	
⑥	円柱　コンクリート化粧打ち放し			⑱	アルミ笠木Ｃ　アルミ既製品　Ｂ－ＦＵ	㉔		㉚	有孔折板ｔ１．６（開口率４０％） 亜鉛メッキ鋼板ポリエステル樹脂粉体塗装品 Ｗ５３０（３山）重ね張り	㊱	アルミｔ２曲げ加工Ｂ－２

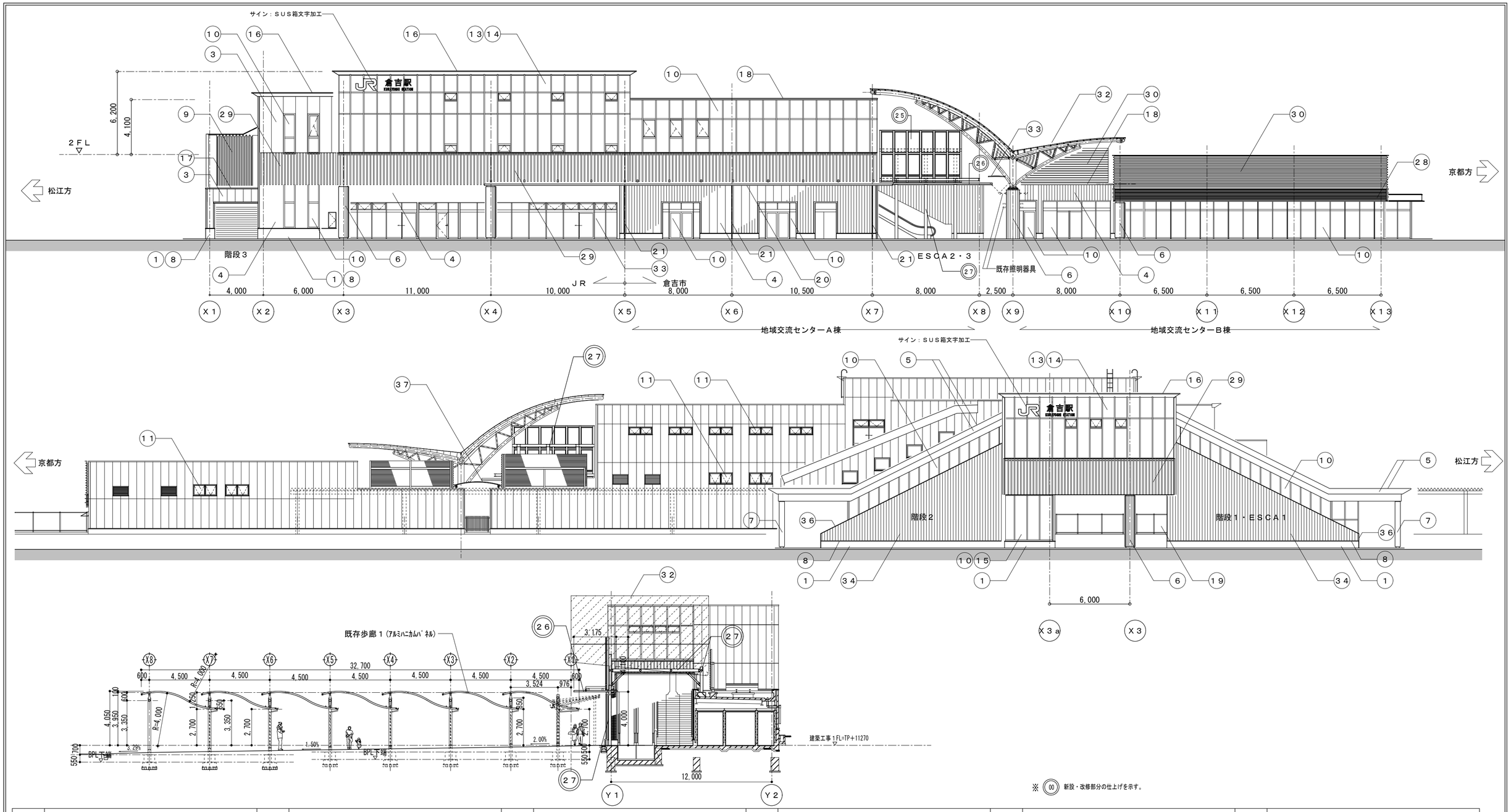
(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
1:200	111200	小標	・	讃岐	DR.NAME	既存全体立面図	A-08



※ (00) 新設・改修部分の仕上げを示す。

記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上	記号	仕上
1	コンクリート打放しの上　複層塗材E	7	円柱　アルミt2曲げ加工　B－FU	13	アルミカーテンウォール　B－1 （内部方立：集成材UC（タモ程度）外部リブ：ティンバータイル）	19		25	アルミサッシ　（住宅用） 熱線吸収ｶﾞﾗｽ6.0t+A6+強化ガラス6.0t（飛散防止ﾌｨﾙﾑ）	31	
2		8	アルミ水切	14	複層ガラスP6＋A6＋HAP6	20	アルミハニカムパネルt100屋根 （支持鋼材亜鉛メッキ下地の上　FUE）	26	アルミハニカムパネルt54屋根 （支持鋼材　ポリウレタン塗）	32	テント（A種膜材）屋根：太陽工業　同等品 支持鋼材亜鉛メッキ下地の上　FUE
3	押出成型セメント板t60　縦張　W600　複層塗材E	9	カラーガルバリウム鋼板t0.8　折板葺山高150	15	複層ガラスP6＋A6＋P6	21	竪樋：SUS既製品60φHL	27	新設鉄骨ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ塗装	33	ろう付アルミハニカムパネルt50屋根 支持鋼材亜鉛メッキ
4	タイル下地用ECPt60の上 せっ器質ボーダータイル25×200接着張り	10	アルミサッシ　B－2	16	アルミ笠木A　アルミt2曲げ加工B－FU（立体ボーダー）			28	アルミ化粧ルーバー　RIKEN　ｽｶｲﾌｨｯﾄSHS-2015-2060　B-2同等品	34	ALCt120　縦張　W600　複層塗材E（リブ付）
5	アルミt2曲げ加工B－FU	11	アルミサッシ　B－1	17	アルミ笠木B　アルミt2曲げ加工B－2　（フラットボーダー）			29	押出成型セメント板t60　複層塗材Eの上 ティンバータイルリブ：ｶﾆﾝﾛ耐火　ﾃｨﾝﾊﾞｰﾀｲﾙ同等品	35	ALCt120　縦張　W600　複層塗材E（フラット）
6	円柱　コンクリート化粧打ち放し	12		18	アルミ笠木C　アルミ既製品　B－FU			30	有孔折板t1.6（開口率40%） 亜鉛メッキ鋼板ポリエステル樹脂粉体塗装品 W530（3山）重ね張り	36	アルミt2曲げ加工B－2

(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町1丁目86番地2
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

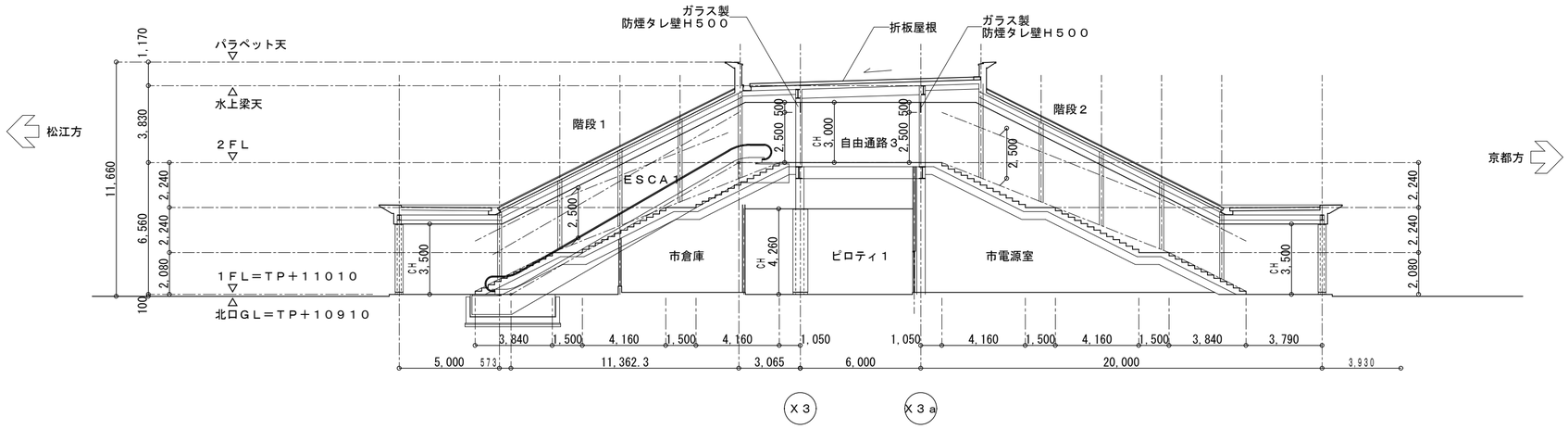
1級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
1級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
1級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

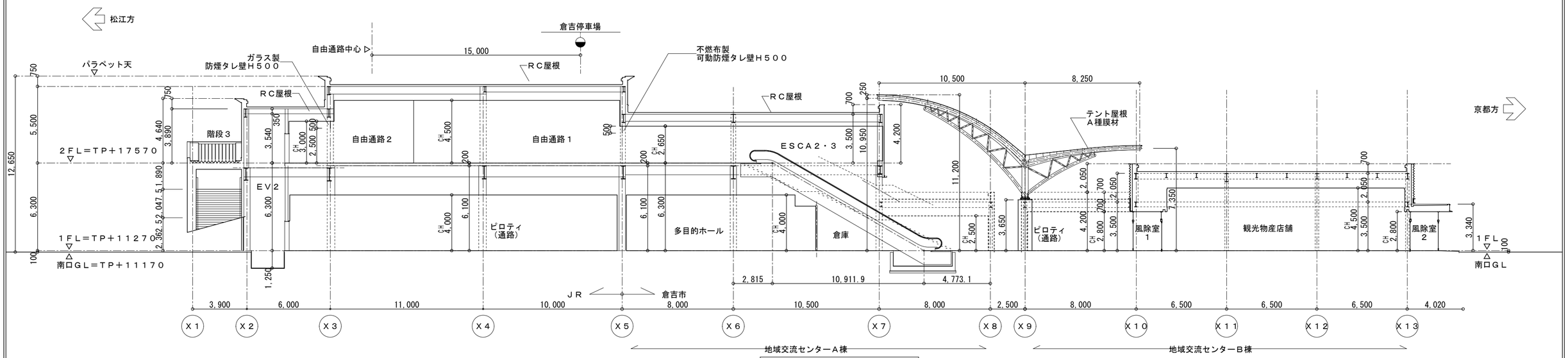
NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
1:200	111200	小椋	・	讃岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
DR.NAME	改修後全体立面図	A-09



Ａ－Ａ　断面図　１／２００



Ｂ－Ｂ　断面図　１／２００

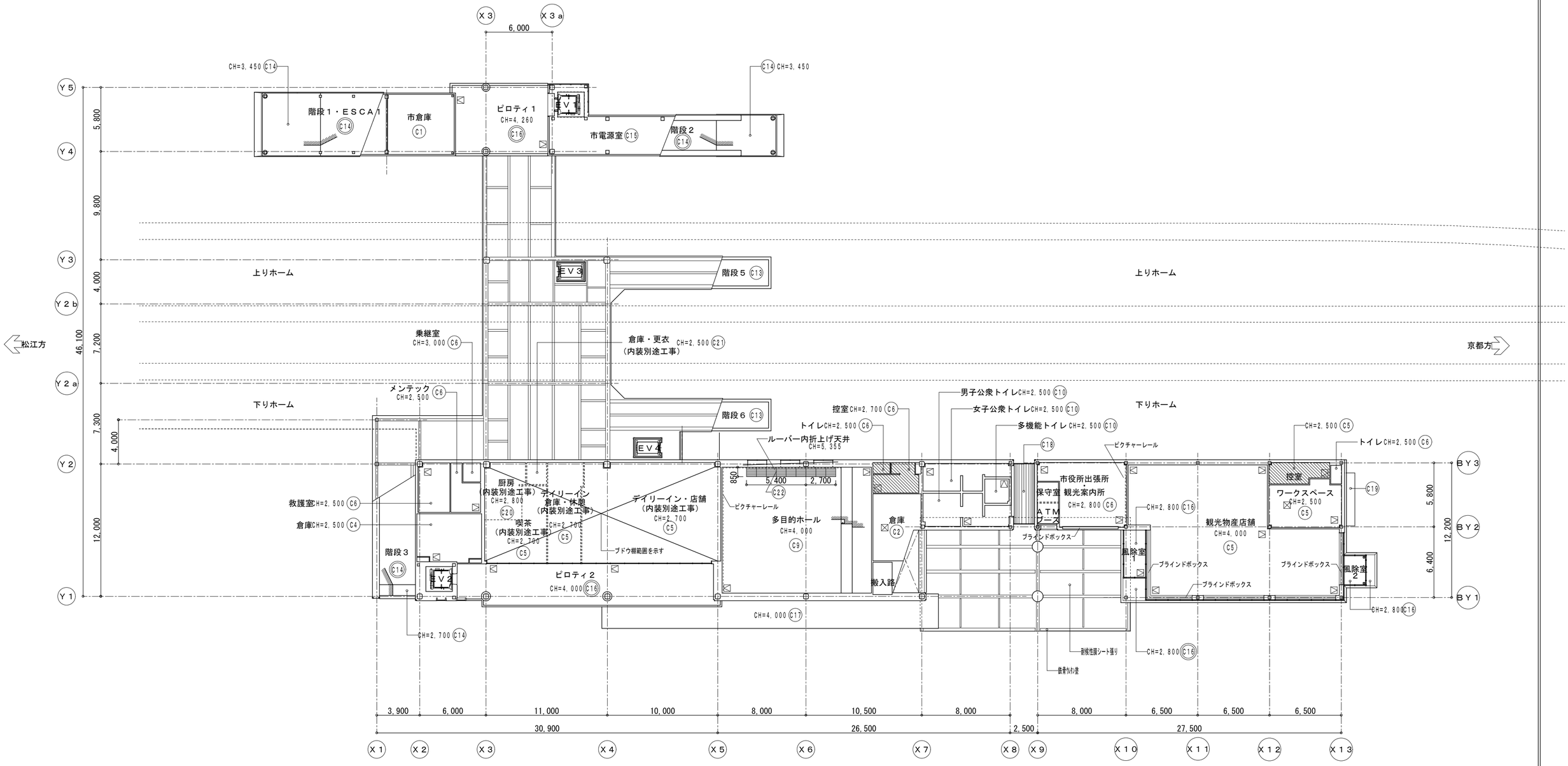
(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	DR.NO.
1:200	111200	小標		讃岐	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	A-10
					DR.NAME 既存全体断面図	



既存１階天井伏図　１：２５０

記号	仕　上	記号	仕　上	記号	仕　上	記号	仕　上	記号	仕　上・凡　例
C1	素地のまま	C6	GB－Dt９．５（不燃積層せっこう板） GWt５０	C11	アルミルーバー２０×１４８@１５０　木目調	C16	ピーリング張り（外部は屋外用ＬＧＳ下地）	C21	GB－Rt９．５＋壁紙２
C2	GB－Rt９．５　素地のまま	C7	GB－Rt９．５＋岩綿吸音板ｔ１２	C12	アルミスパンドレル（１） 一部　アルミ積層パネル（アルポリック同等品）ｔ３　ｗ４５０　目透し張@６００	C17	アルミサンドイッチパネルｔ１００	C22	アルミルーバーB－AE（開口率８５%）
C3	GB－Rt９．５　素地のまま GWt５０	C8	GB－Rt９．５＋岩綿吸音板ｔ１２ GWt５０	C13	アルミスパンドレル（３）RIKEN　RA-100　B-2同等品	C18	アルミサンドイッチパネルｔ５０		天井点検口　４５０角（アルミ既製品枠）落下防止 ただしＣ７部分のみ化粧目地枠タイプ
C4	GB－Rt１２．５ 素地のまま	C9	GB－Rt９．５＋岩綿吸音板ｔ１２ー部織り上げ天井GB－Rt９．５寒冷紗パテEP GWt５０	C14	アルミスパンドレル（２）RIKEN　RA-100LMF　B-2同等品	C19	アルミ製庇（既製品）B－１		特建採光無窓による天井裏区画（不燃）範囲を示す ＬＧＳ下地GB－Rt１２．５張り
C5	GB－Dt９．５（不燃積層せっこう板）	C10	ケイカル板ｔ６　NAD	C15	Ｆデッキ敷き　亜鉛メッキ（漏水対策）	C20	GB－Rt９．５＋EP	C00	仕上げ凡例の二重円は屋外用ＬＧＳ（耐風天井）下地部分

(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

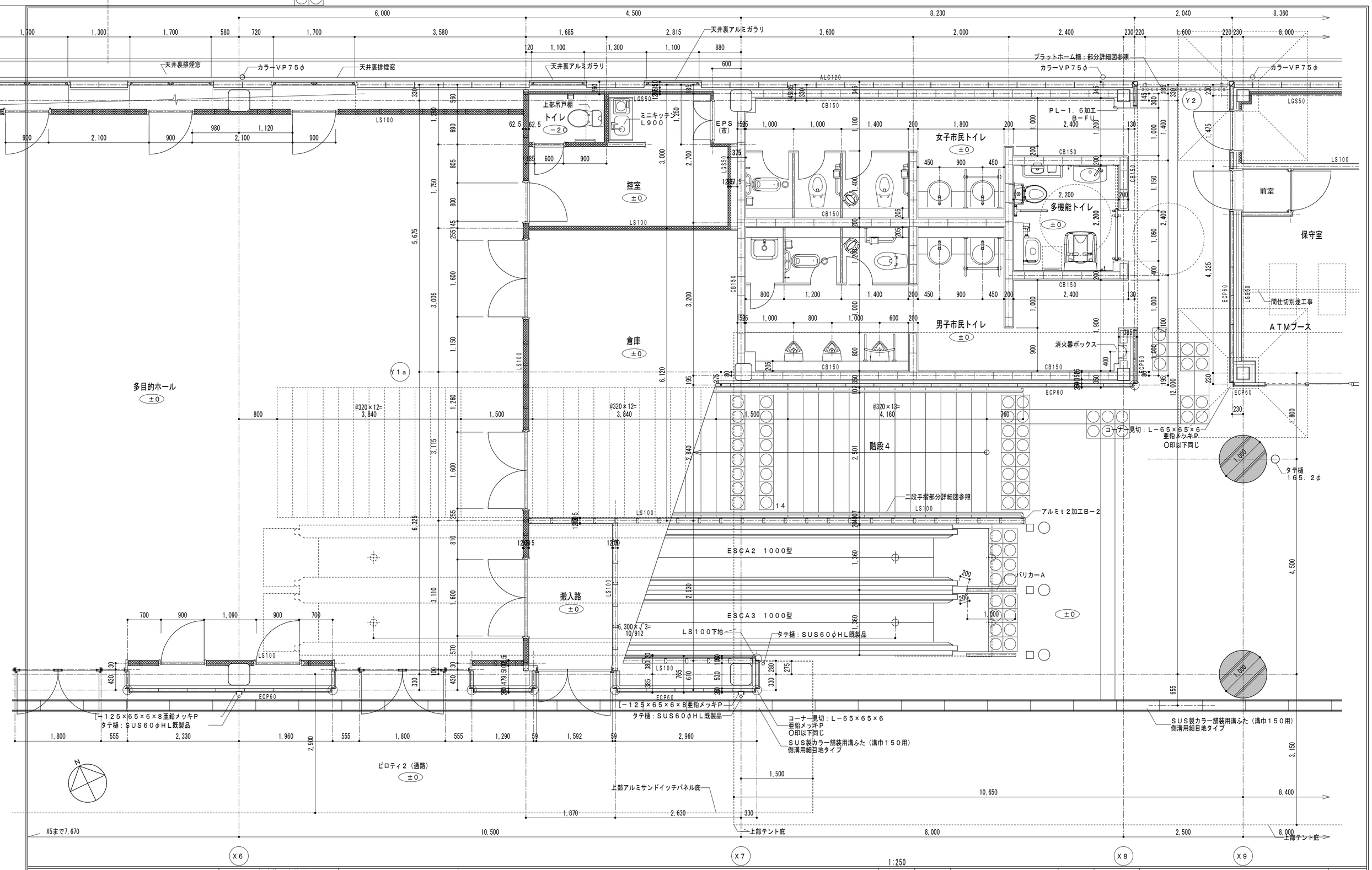
１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

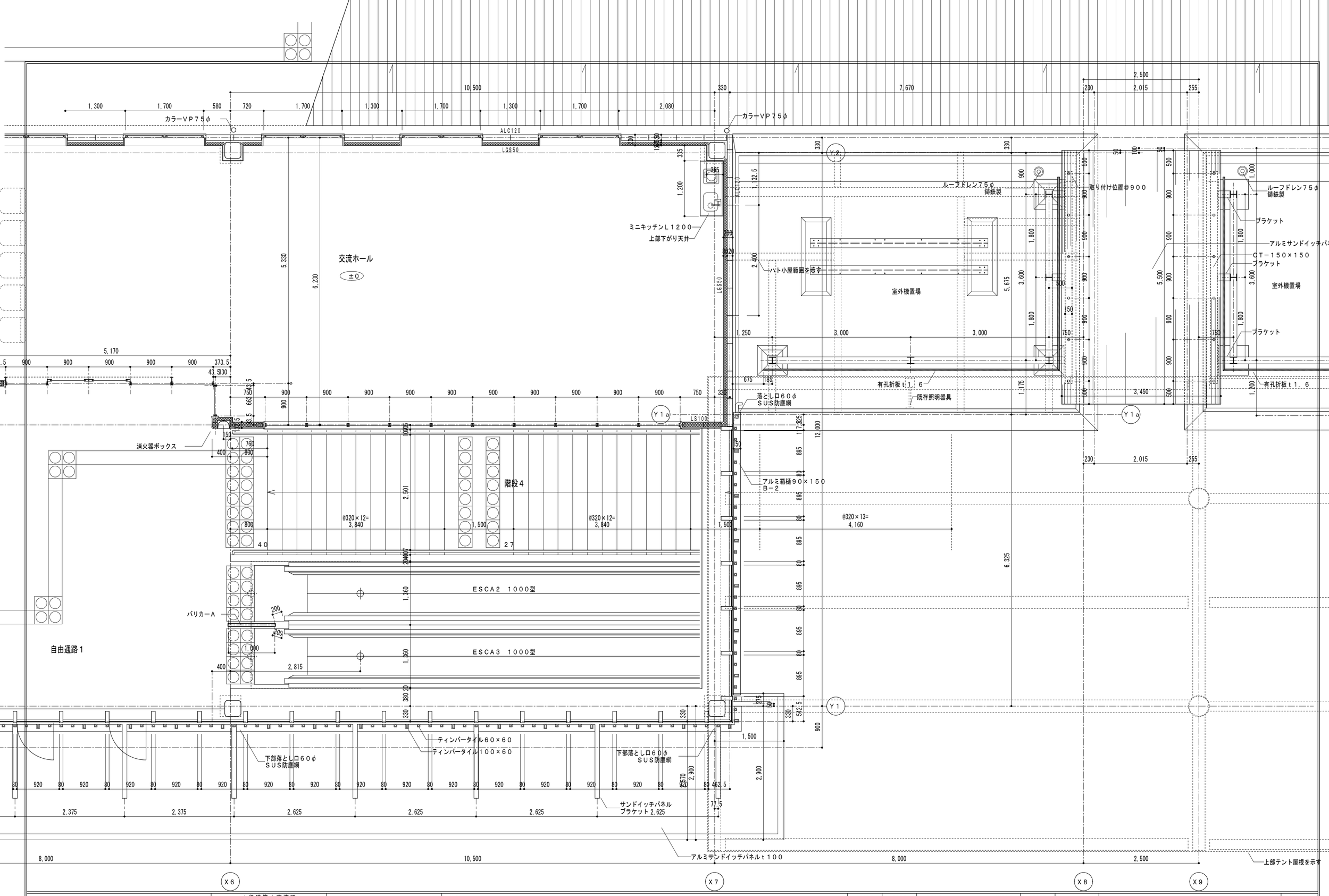
SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
1:250	111200	小椋	・	讃岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
DR.NAME	既存１階全体天井伏図	A-11



(有)MIEUX設計工房 鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２ TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570	１級建築士事務所 鳥取県知事登録第22-561号 管理建築士 １級建築士　大臣登録第168674号 讃岐英夫	設計者 １級建築士　大臣登録第168674号 讃岐英夫	NOTE:	SCALE 1:50	DATE 111200	DRAW　CHECK 小椋・・	CHIEF 讃岐	TITLE DR.NAME	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事 南口 既存1階平面詳細図	DR.NO. A-12

1:250



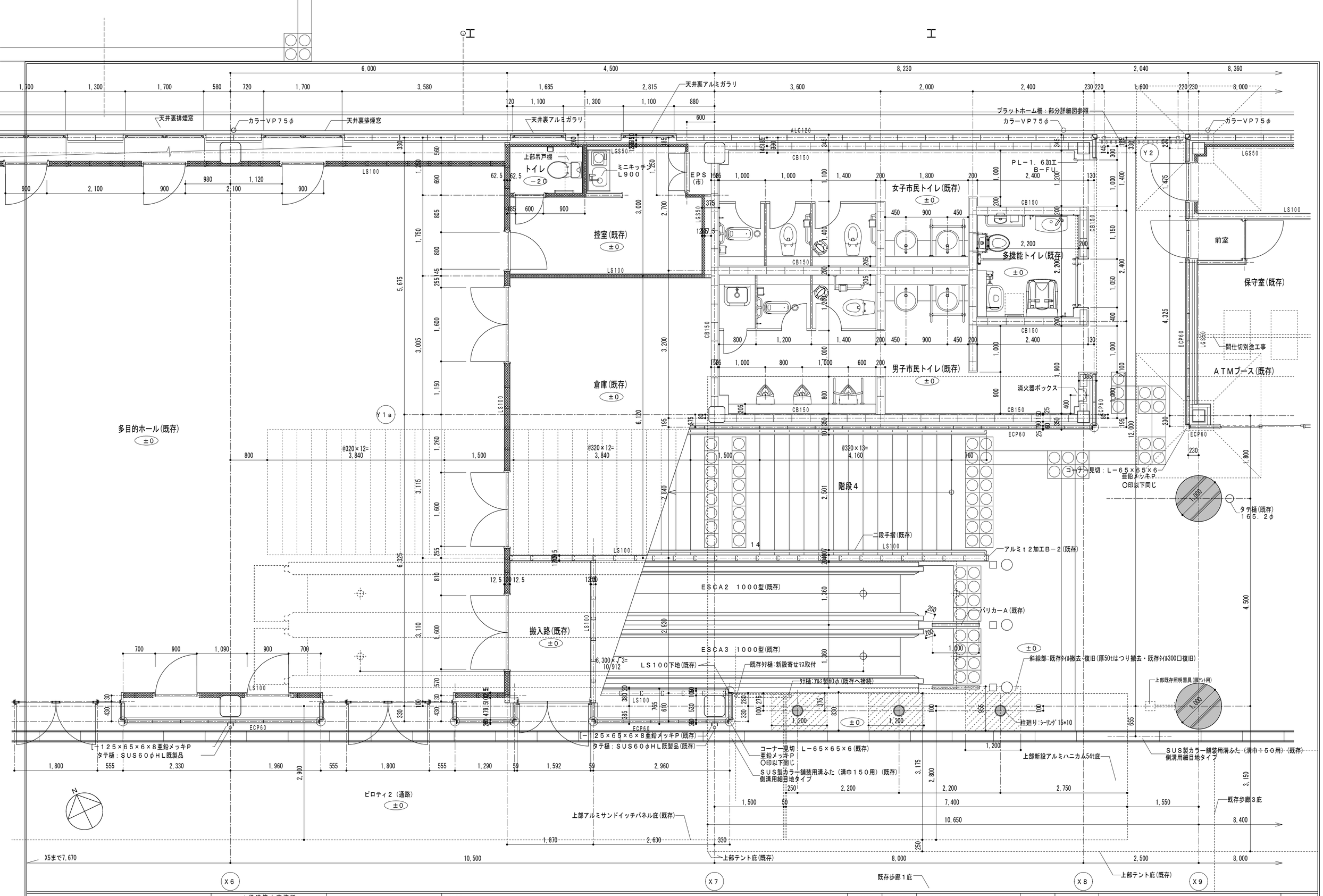
(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

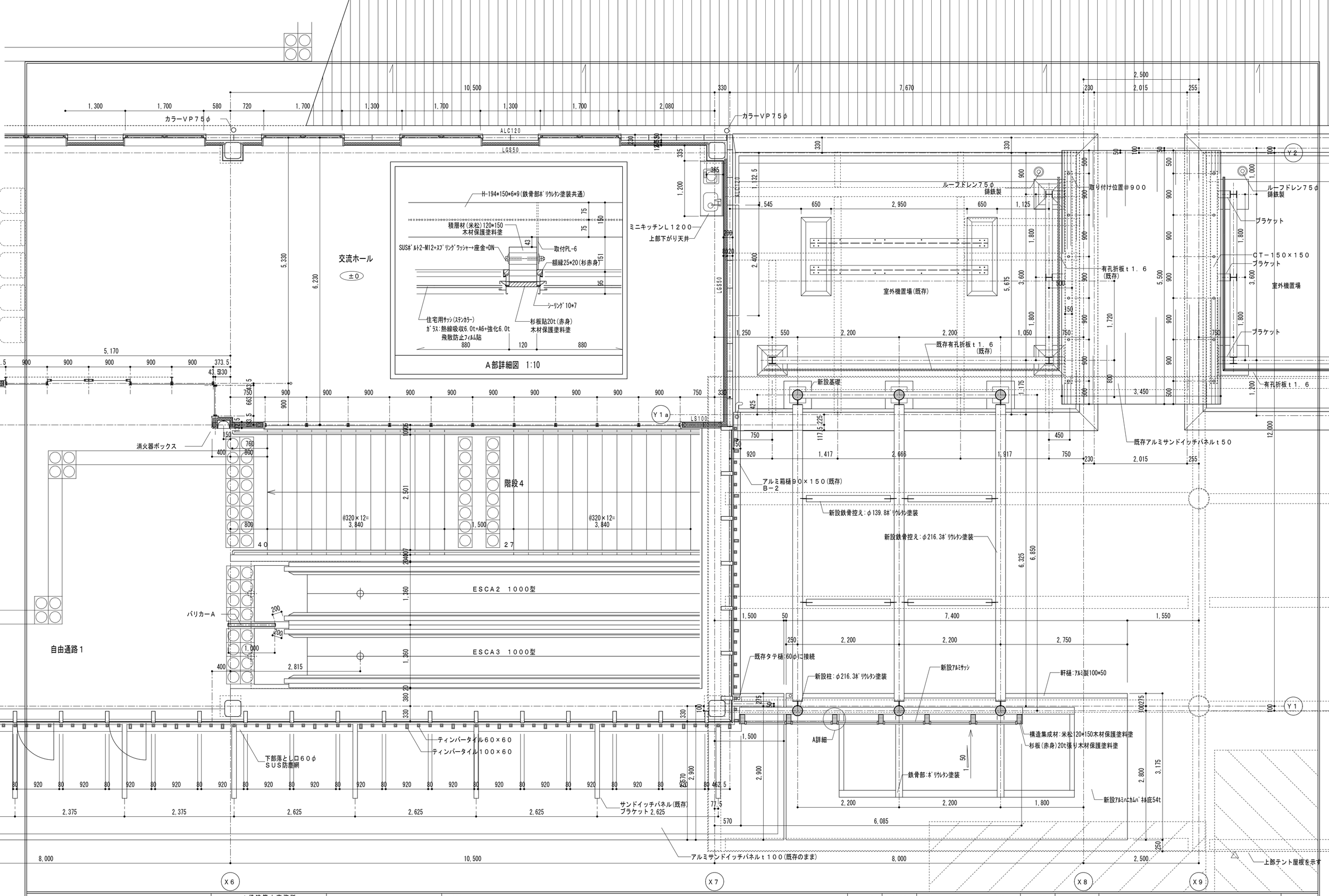
設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	DR. NO.
1:50	111200	小椋	・	讃岐	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	A-13
					DR. NAME: 南口既存２階平面詳細図	



(有)MIEUX設計工房 鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２ TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570	１級建築士事務所 鳥取県知事登録第22-561号 管理建築士 １級建築士　大臣登録第168674号 讃岐英夫	設計者 １級建築士　大臣登録第168674号 讃岐英夫	NOTE:	SCALE 1:50	DATE 111200	DRAW　CHECK 小椋・・	CHIEF 讃岐	TITLE DR.NAME	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事 南口 改修後1階平面詳細図	DR.NO. A-14



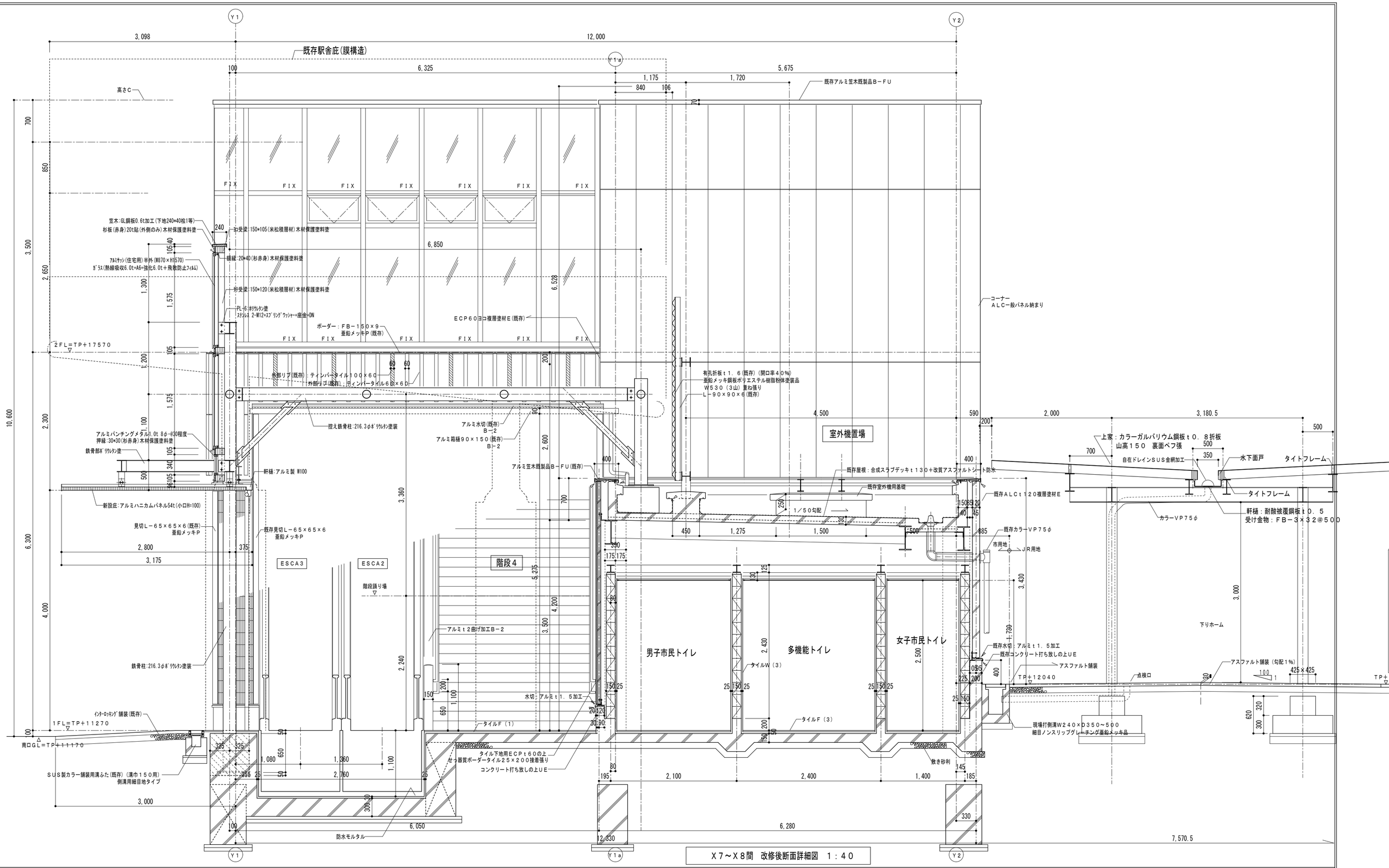
(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

１級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
１級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	DR. NO.
1:10 1:50	111200	小椋	・	讃岐	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	A-15
					DR. NAME　南口 改修後２階平面詳細図	



X7～X8間 改修後断面詳細図 1：40

(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町1丁目86番地2
TEL:0858-48-1003 FAX:0858-26-7570

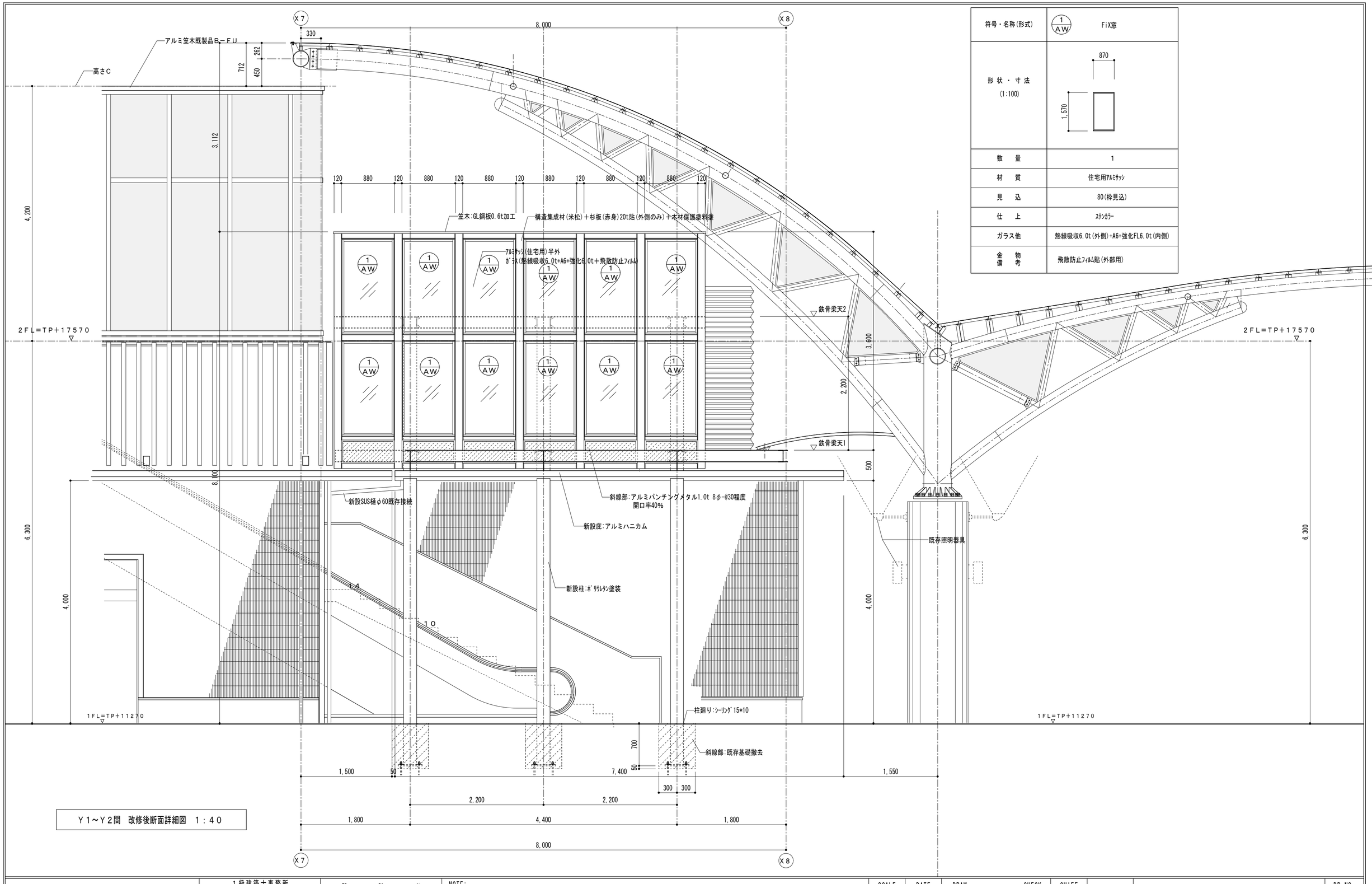
1級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
1級建築士 大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
1級建築士 大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
1:40	111200	小椋	・	讃岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
DR.NAME	改修後断面詳細図(1)	A-16



符号・名称(形式)	1 AW　FiX窓
形状・寸法 (1:100)	870 / 1,570
数量	1
材質	住宅用ｱﾙﾐｻｯｼ
見込	80(枠見込)
仕上	ｽﾃﾝｶﾗｰ
ガラス他	熱線吸収6.0t(外側)+A6+強化FL6.0t(内側)
金物 備考	飛散防止ﾌｨﾙﾑ貼(外部用)

Y1～Y2間　改修後断面詳細図　1：40

(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町1丁目86番地2
TEL:0858-48-1003　FAX:0858-26-7570

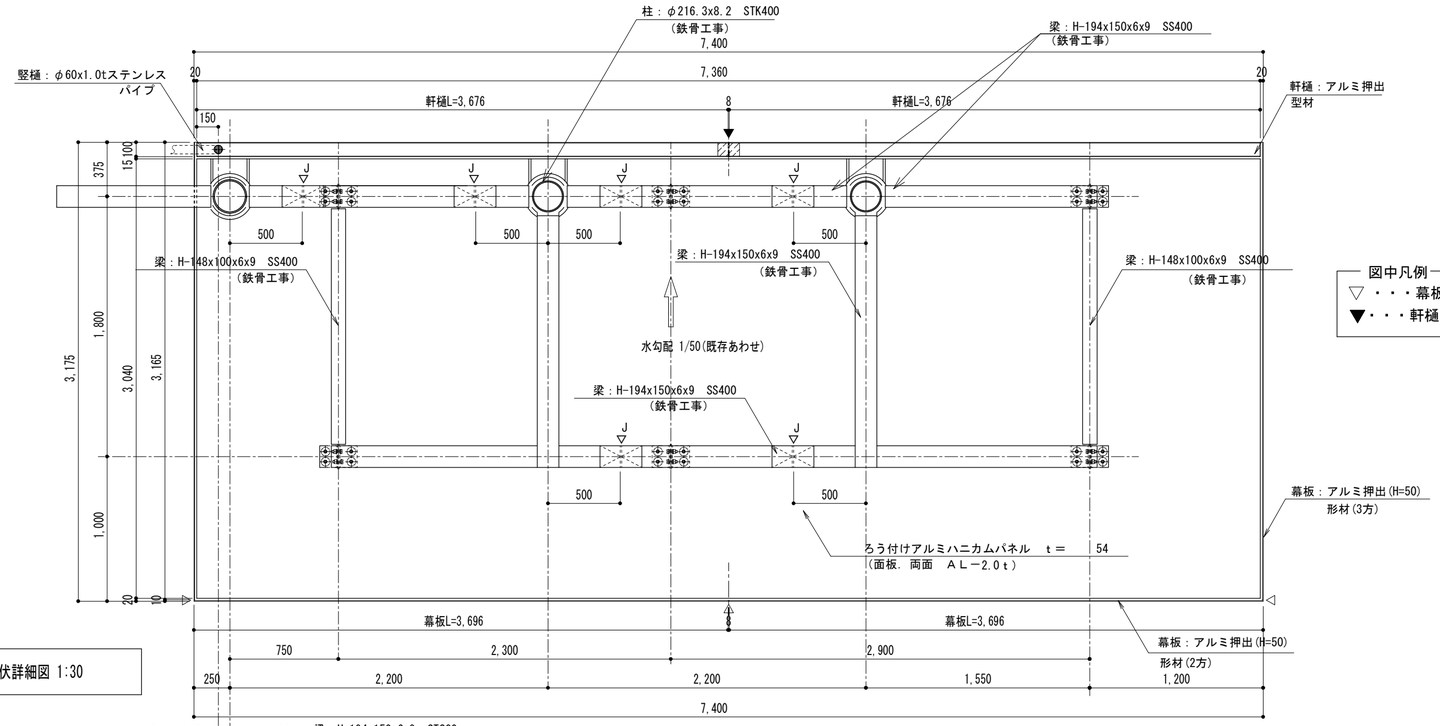
1級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
1級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
1級建築士　大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF
1:40	111200	小椋	・	讃岐

TITLE	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	DR.NO.
DR.NAME	改修後断面詳細図(2)	A-17



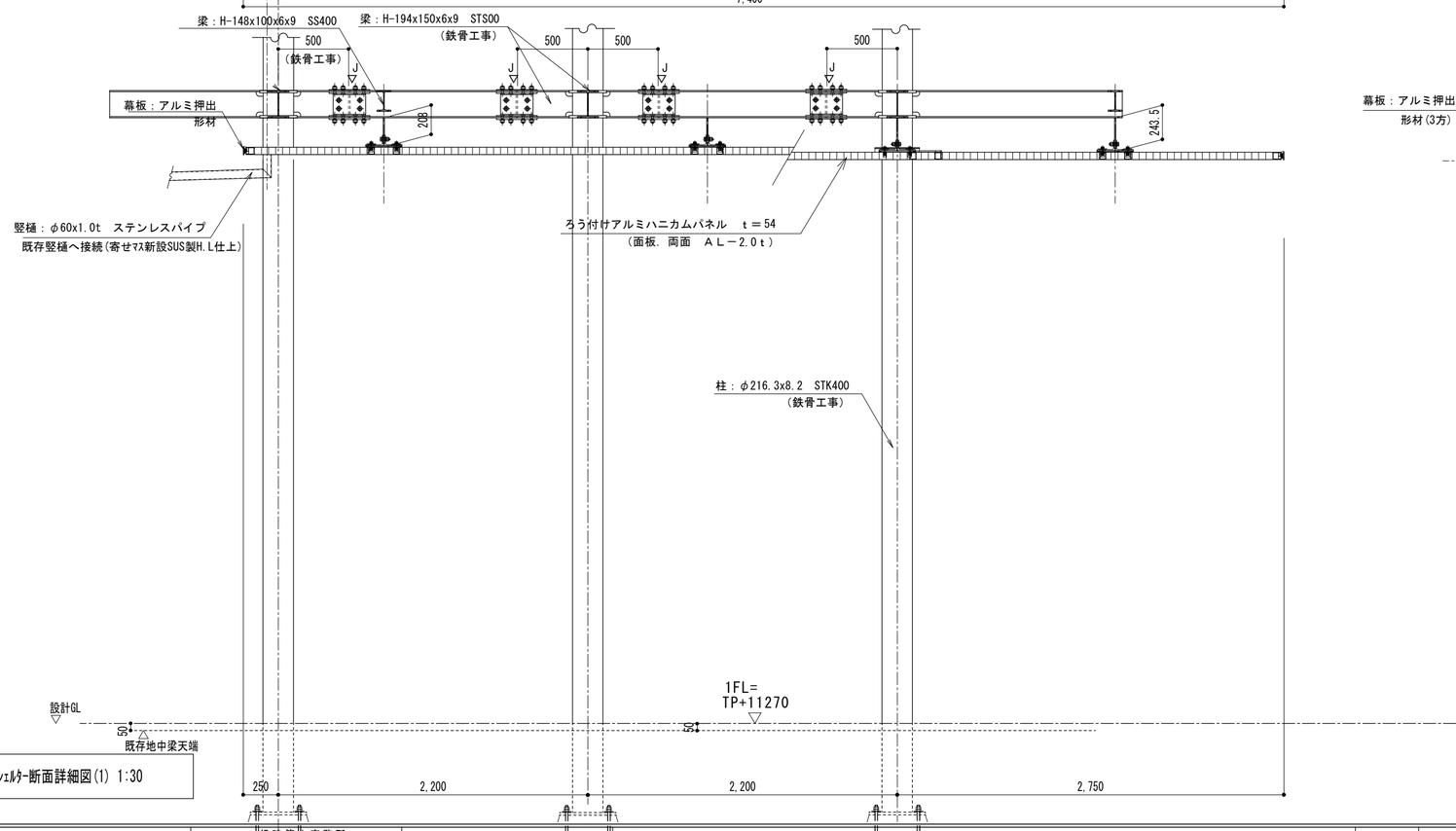
図中凡例

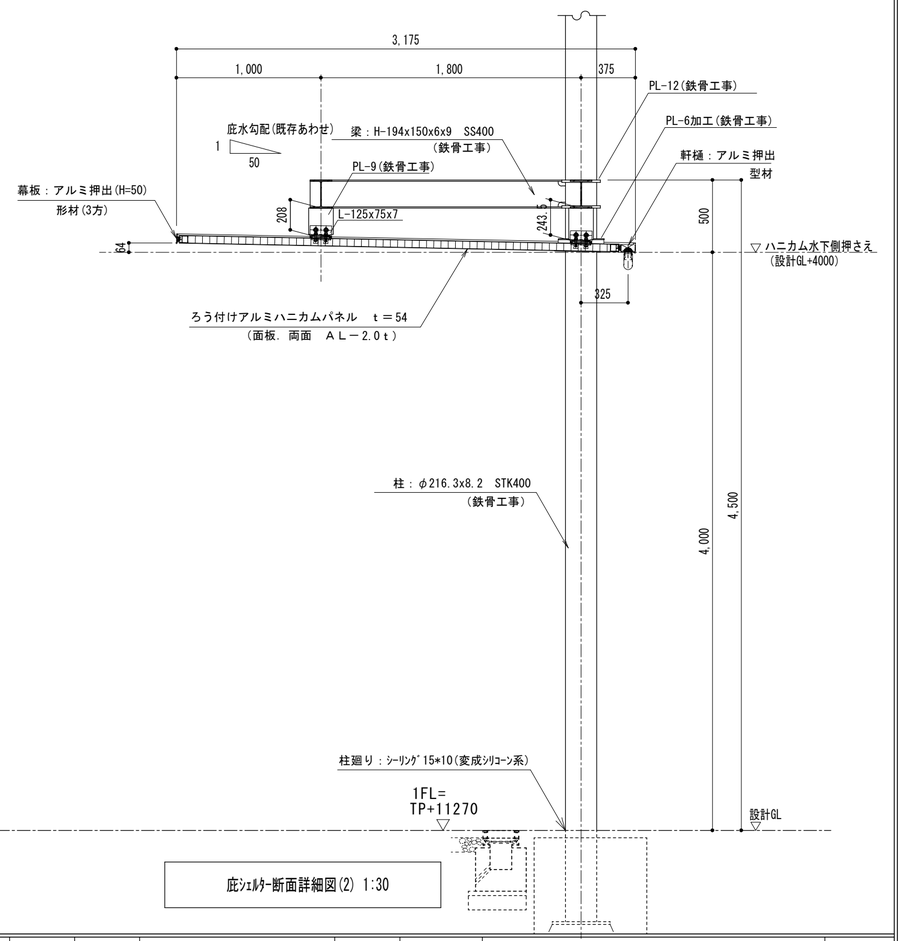
▽・・・幕板ジョイント

▼・・・軒樋ジョイント

ろう付アルミハニカムパネル仕様

アルミハニカムパネル	ろう付けアルミハニカムパネル t＝54	
板 材	材質：アルミニウム合金板 JIS H 4000 A3003P-H26 厚み：2.0mm	
コア材	材質：アルミニウム合金はく JIS Z 3263 BAS221P 厚み：0.2mm セルサイズ：φ28mm	
枠 材	材質：アルミニウム合金押出形材 JIS H 4100 A3003S-H112	
仕上げ	低温焼付硬化型ポリウレタン樹脂塗装	
ブラケット	溶融亜鉛メッキ（ＪＩＳ Ｈ８６４１ ２種 ５５）の上 常温硬化型ポリウレタン樹脂塗装	
ボルト類	溶融亜鉛めっき高力六角ボルト，Ｆ８Ｔ ＨＤＺ 55（ＪＩＳ Ｂ １１８６同等品） ステンレスボルト ＪＩＳ Ｂ １１８０に準拠	
ガスケット類	高耐引裂性シリコーンゴム（HSR）	
ｼｰﾘﾝｸﾞ材	2成分形シリコーン系シーリング材（SR－２）JIS A 5758	
鉄骨柱	φ-216.3x8.3 STK400	JIS G 3444
鉄骨梁	H-194x150x6x9 SS400	JIS G 3101
	H-148x100x6x9 SS400	JIS G 3101
鉄骨仕上塗装	耐候性塗料塗り（DP） 3級 常温硬化型ポリウレタン樹脂塗装	
鉄骨錆止塗装	素地ごしらえＢ種＋ジンクリッチプライマー2種＋構造用錆止めペイントA種	





(有)MIEUX設計工房
鳥取県倉吉市清谷町１丁目８６番地２
TEL:0858-48-1003 FAX:0858-26-7570

1級建築士事務所
鳥取県知事登録第22-561号
管理建築士
1級建築士 大臣登録第168674号
讃岐英夫

設計者
1級建築士 大臣登録第168674号
讃岐英夫

NOTE:

SCALE	DATE	DRAW	CHECK	CHIEF	TITLE	DR.NO.
1:30	111200	小椋		讃岐	倉吉駅交流センター雨水防護壁整備工事	
					DR.NAME 南口 庇ｼｪﾙﾀｰ詳細図	A-18